第　68　号

平成24年1月発行

関東電友会

東京無線支部

✳✳✳　表紙のことば　✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳

堀井　清男

小さな五重塔

此の朱色の五重塔は高さ約五米、茅ヶ崎駅より徒歩約５分の図書館入口近くに雑木林に囲まれ、目立たない場所にひっそりと立っています。

✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳✳

むせん第68号目次

1　平成２３年度上半期事業実施概要

１．会員の動き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２．東京無線支部定期総会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

３．慶弔 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

４．支部会報の発行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

５．電話順送表の配布 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

６．サークル活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

７．東日本大震災の被災者支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

８．役員会および常任幹事会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

９．本部理事会、常任幹事会および総会など ・・・・・・・・ 3

2　東京無線支部定期総会模様　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3　平成２３年度上半期サークル活動状況　・・・・・・・・・・・ 7

１．サークル活動実施結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

２．各サークル活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

4　干支だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

5　追　　憶

故梶　昭三さんを偲んで　　斉藤　兼雄 ・・・・ 45

平田　勝治さんを偲んで　　近藤　昭次 ・・・・ 47

高岡　泰資さんを偲んで　　北上　利雄 ・・・・ 48

６ 随　　想

無線工事局勤務の頃　井上　五郎・・・・・ 50

トルコ遺跡巡り　板川　凡夫・・・・・ 53

初めての富士山登山　秋山　道夫・・・・・ 57

耐震と我が家のリフォーム　千野　　里・・・・・ 60

住宅用太陽光発電について　林　　憲男・・・・・ 63

７ お知らせ

１．新入会員の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

２．叙　勲 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

３．長寿番付十傑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

４．物故者の職歴など ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

６．その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

（１）ボランティア活動賞の受賞 ・・・・・・・・・・・ 68

（２）業界窓口担当者へ支援依頼の打合せ ・・・・・・ 69

（３）お詫び ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

（４）東京無線通信部名簿を探しています ・・・・・・ 69

８ 無線中継所の今昔物語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

１　平成２３年度上半期事業実施概要

１．会員の動き

東京無線支部の会員は、平成２３度上半期末には前年度末より１名減の６２４名となりました。名誉会員は１２８名、女性会員は７名です。（新入会員は７名、物故者６名、退会者２名）。今後も未加入の方の勧奨に努めます。皆様もお知り合い等で未加入の方がおられましたら勧奨をお願いいたします。

	22 年度	23 年度上期
前期末会員数	634 名	625 名
新入会員数	30 名	7 名
物故者数	25 名	6 名
退会者数	14 名	2 名
当期末会員数	625 名(名 113) (女 7)	624 名(名 128) (女　7)

地 区 名	会 員 数
東京（関東以外を含む）	１５９名
神奈川	１２７名
千葉（茨城を含む）	２１４名
埼玉（栃木・群馬を含む）	１２４名
計	６２４名

注：（　）内は名誉会員数、女性会員数の再掲

２．東京無線支部定期総会

第４３回定期総会を平成２３年６月２５日（土）、新宿の東京オペラシティ２４階のＮＴＴセミナールームにて開催し１１３名（来賓５名、会員１０８名）が出席しました。詳細は本号の２をご覧下さい。

３．慶弔

（１）迎寿のお祝い

平成２３年度に米寿（８名）、喜寿（１１名）を迎えられた方々に、総会当日、支部長よりお祝い状と記念品を贈呈しました。（迎寿の方々は会報６７号の５を参照）

（２）ご逝去

平成２３年度上半期中に下記の６名の方々がお亡くなりになりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。なお、告別式には支部代表が参列し、香華をお供えいたしました。

梶　昭三　様　　平田　勝治　様　　関　要　様　　伊藤　嘉明　様
吉橋　進　様　　高岡　泰資　様

（各故人の職歴などは本号の７を参照）

４．支部会報の発行

会報「むせん」の第６７号を平成２３年６月２９日(水)に、全会員あて発送いたしました。

５．電話順送表の配布

平成２３年度の電話順送表を平成２３年８月３１日(金)に全会員に配布しました。

６．サークル活動

１７サークルに入られている方々が、親睦と気力の活性化、健康の維持に努めておられます。活動模様は本号の３をご覧下さい。

７. 東日本大震災の被災者支援

平成２３年３月１１日に発生した未曽有の大震災により、多くの電友会会員が被災されました。関東電友会では被災された会員に、支援の手を差し伸べようと見舞金を募りました。　無線支部としては３月２２日に全会員へ呼びかけを行い、支部会員の７０％にあたる４３４名の方から1,778,000円（1,778口）の応募をいただきました。大勢の会員の方々のご協力にお礼申し上げます。見舞金については、年会費と合せて振込いただき関東電友会本部へ送金しました。

第１回送金	５月３０日	３５３名分	1,469,000円
第２回送金	８月１２日	８０名分	306,000円
第３回送金	９月３０日	１名分	3,000円
合　　計		４３４名分	1,778,000円

無線支部管内の被災せれた会員へのお見舞いについては、会員からの被災状況等を本部報告のうえ、総合認定された１９名に対し６月１７日に実施させていただきました。支部ホームページへのお礼文投稿をはじめ、多くの方から支援に対し感謝の手紙や電話をいただいております。

被災状況	東京都	埼玉県	千葉県	茨城県	栃木県	計
Ａランク	１名	１名	１名	４名	１名	８名
Ｂランク	２名	１名	１名	７名		１１名

Ａランク(家屋の一部損壊、屋根崩壊、家屋の外壁内壁の崩壊)

Ｂランク(家屋外壁内壁のひび割れ、屋根瓦落下)

(注)　関東電友会全体のまとめは、関東電友会会報第８２号(平成２３年７月発行)に掲載せれております。なお、被災状況の件数が上記表と違うのは、関東本部の資料は被災内容によるダブルカウントをしているためです。

８．役員会および常任幹事会

役員会を３回（平成２３年４月２７日〈水〉、６月２９日〈水〉、８月３１日〈水〉）常任幹事会を３回（平成２３年５月２０日〈金〉、７月２９日〈金〉、９月３０日〈金〉）開催しました。審議事項は次号で２３年度分まとめて掲載することと致します。

９．本部理事会、常任幹事会および総会など

本部理事会に２回（平成２３年４月２１日〈木〉、７月１９日〈火〉）、常任幹事会に１回〈平成２３年５月１２日〈木〉〉出席しました。また本部総会（５月２８日〈土〉）には１０名の無線支部役員が出席しました。

ことばのメモ　　撫子（秋の七草）の語源

語源は古事記に描かれた出雲神話の世界。高天原から地上に降り立ったスサノオは、出雲国の斐伊川上流で、怪物ヤマタノオロチにおびえる親子と出会う。聞けば、８人娘のうち７人までもが、毎年一人ずつ、オロチに食われてしまったと悲嘆に暮れる。　そこでスサノオは、最後にのこされた娘、クシナダヒメを妻にすることを条件に怪物退治を申し出て、無事大役をはたす。そのとき、ヒメを匿い、新居にも成った場所が縁結びの神様として名高い八重垣神社（松江市）と言われている。　クシナダヒメは、両親が撫でるように可愛がって育てた美しく大切な子だ。まさに「撫子」である。それほど可憐な花が「撫子」だ。後に中国から伝わった「唐撫子」と区別するため、「大和撫子」とも呼ばれるようになった。（読売新聞より）

２　東京無線支部定期総会模様

６月２１日～２４日は梅雨の合間の晴で、猛暑日のところも出るほどで、埼玉県の熊谷では６月の最高気温を２０年ぶりに記録更新（３９.８℃）しました。

東京無線支部の第４３回定期総会は、平成２３年６月２５日（土）に東京オペラシティタワー２４階のＮＴＴセミナールームで開催、この日は梅雨の戻りとなったが、会員の皆様がお出かけになる時間には日も差し込むまずまずの天気となり、１１３名(会員１０８名、来賓５名)の方々に出席いただきました。

総会は予定どおり１１時に高尾副支部長の司会で開会し、先ず平成２２年度に亡くなられた会員の方々、３月１１日の東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を祈り黙祷をささげた後、支部長の挨拶に入りました。

近藤支部長から「３月１１日に発生した東日本大震災に対し、関東電友会本部が全国に先駆けて被災会員の支援活動を実施することになり、無線支部として会員皆様にご協力をお願いしたところ、支部会員の７割４３４名の大勢の会員の皆様から１７７万円と大変多額な支援金のご協力をいただきました。無線支部会員で家屋の損壊等を受けられた１９名の方に６月１７日にお見舞いを実施しました。当支部からの支援金はこの他関東管内や東北管内被災者の支援に充てられることになっております。ここにあらためて会員皆さんのご協力に厚く御礼申し上げます。

会員拡大活動は支部活動の最重要課題として位置づけ、役員各位が対象者への入会勧奨や、首都圏無線会との連携を図るなど新入会員獲得に努めており、平成２２年度は３０名の新入会員を迎えることができましたが、物故者、退会者の増加により会員総数は前年度より９名減の６２５名となっております。

支部の大きなイベント「むせん初春の集い」「各地区懇談会」「定期総会」へ、一人でも多くの会員が参加していただけるように実施内容の充実、実施時期の見直し等を行い、若干ではありますが参加者を増やすことができました。」大震災支援に対するお礼、支部活動状況などの挨拶がありました。

次に関東電友会桑原会長から「３月１１日に発生した東日本大震災に対する支援について、会員の皆様方に大変なご協力をいただき、我々の仲間を救済するための支援金をお渡しすることができました。支援物資についてもご協力いただきましたが、停電でテレビも電話も使えない中で役立ったのは“手回し式ラジオ”でした。電友会の仲間同志で助け合う事は、今回の大震災の中であらためて実感として実行できたことです。このような絆が大切で、お互い助け合う気持ちが大事であり今後とも無線支部内、電友会全体の中で育てていきたい」などの来賓ご祝辞をいただきました。

続いて支部長が議長席につき、議案審議に入りました。第１号議案（平成２２年度事業報告、決算報告、会計監査報告）について吉田副支部長及び岩澤監事から説明、引続いて第２号議案(平成２３年度事業計画案、予算書案)、第３号議案(支部運営細則の改定案)について提案説明し、全て満場一致で承認をいただきました。今年度は支部役員の非改選期ですが、健康上の理由で幹事１名が交替した事を報告しました。

今年度の迎寿者は米寿８名、喜寿１１名で、総会には米寿２名、喜寿７名が出席され、近藤支部長からお祝い状と記念品をお贈りしました。最後に新旧役員の挨拶があり丁度１２時に総会を終了しました。

この後､ＮＴＴ東日本本社ビル３階の社員食堂に移動して懇親会に入りました。先ずは支部長から「会員皆様のご協力により、総会議事が無事に終了したことに対してお礼のことば。この春の叙勲で桑原会長が瑞宝中綬章の栄に浴された事の紹介」があり、続いて５名の来賓の方々の紹介を行い、ＮＴＴドコモ執行役員ネットワーク部長の入江様からご挨拶をいただきました｡「３月１１日の大

震災から１００日以上経過したところですが、電気通信サービスを提供している事業者として、出来るだけ早くお客目線で復旧すると言う事が使命であり、ＮＴＴ東日本を含めたＮＴＴグループ全体とした努力をしてきたことで、お客様からのご支持をいただき大変良かった。また、今回の復旧作業の中で衛星通信回線の活用、マイクロ波エントランスを使っての基地局の復旧など無線の力を発揮することができた」など、大震災に伴うサービスの復旧模様についてお話をいただきました。

乾杯の音頭は迎寿者を代表して岡部恒雄様にお願いし「自分では歳を取ったつもりはないのですが、電車に乗ると席を譲られることが多くなった。皆様、健康に気を付けて、他人に迷惑をかけない範囲で長生きをしましょう」と元気なご発声でパーティの幕開けとなりました。会場はいつもどおり５つのテーブルに沢山の料理とビール・お酒が並び、中央の屋台にはお寿司、おそばのワゴンサービスもあり、来賓を囲んでの歓談、会員相互の歓談と情報交換など賑やかで楽しい宴となりました。途中で５月の本部総会で「第２回ボランティア活動関東電友会会長賞」を受賞された関政雄様の紹介とお札を使ったマジックのご披露がありました。愉しい時の過ぎるのは早いもので、やがて予定の時間となり、今年度名誉会員になられた２１名を代表して、小山和男様の関東一本締めでお開きとなりました。

（ 吉田　哲夫 ）

3　平成２３年度上半期サークル活動状況

1．サークル活動実施結果

サークル名	活動日程・場所・参加人員										合計	備考
	4月	5月	6月	7、8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
囲碁			6/3	8/5		10/7〜8	11/中	12/3		2/3			記入例：
			16	17		湯河原町	関東大会	渋谷福祉		八重洲ｾﾝﾀ			上段は日程を記入
麻雀				7/3	9/6〜7			12/5〜6	1／下〜2/上		3/6〜7		下段は参加人員、実施までは場所等を記入
				21	11			熱海	本部計画		熱海		
絵画				7/25〜8/31				12/上		2/上〜下			予定日未定は中旬等
				11+5				例会		展示			
釣り				7/4			11/5						
				8			金沢八景						
旅行						10/12〜13							
						渋温泉							
寄席		5/21					11/26						
		10					上野鈴本						
写真	4/28		6/30		9/28	10/6		12/15		2/23			
	11		11		3	8		撮影会		例会			
園芸	4/22		6/24	8/19		10/7				2/10			
	4		3	雨天中止		夢の島				葛西臨海公園			
パソコン	4/26	5/24	6/28	7/26	9/26	10/25	11/22			2/28	3/26		支部行事(参考)
	9	7	8	9	9	TRC	TRC			TRC	TRC		
ゴルフ 東京			6/14			10/31							H23.6.25：総会
			10			昭和の森							
ゴルフ 神奈川		5/16				10/18							
		14				東名厚木							
ゴルフ 千葉		5/20					11/25						H24.1.21：むせん初春の集い
		24					成田東						
ゴルフ 埼玉		5/18				10/27							
		9				ﾘﾊﾞｰｻｲﾄﾞ・ﾌｪﾆｸｽGC							10月：地区懇
ハイキング 東京			6/11			10/22							東京地区　10/29
			5			昭和記念公園							神奈川地区　10/29
ハイキング 神奈川	4/5						11/10						千葉地区　11/12
	中止						山の手						埼玉地区　10/29
ハイキング 千葉		5/21					11/27						実施日：土曜日
		10					未定						
ハイキング 埼玉				7/2			11/上						
				4			未定						
集計	3回	6回	6回	7回	3回	回	回	回	回	回	回	回	
	２３人	７４人	５３人	７５人	２３人	人	人	人	人	人	人	人	
支部行事(参考)			総会			地区懇談会		12/11ﾊｲｸ	初春の集い				
			108+5					交流会					

２．各サークル活動状況

○ 囲碁サークル

・初夏囲碁大会（臨時）

この碁会は平成２３年６月３日（金曜日）に、上野囲碁センターにて参加者１６名で開催しました。この臨時の碁会は、東日本大震災の影響で中止した「春季囲碁大会」（４月２日）の代わりに設定しました。大会では１６名用のツリーで成るトーナメント戦を行いました。先ず、抽選による相手と初戦を行い、勝者も敗者も、全て４試合となるツリーによる対局を堪能しました。

試合の結果は次のとおり（敬称略）。
優勝；植田庫治（１４７)、準優勝；関根清治（１１２)、第三位；森本正市（１１５)。
敢闘賞；南　松市（１３９)、柏木　信（１３４)、松本英一（２００)。

恒例の懇親会では７名が乾杯、対局の感想ではタラ・レバの好手が披露され、間をおいて昔話までに話題が広がり、和やかな一時を過ごしました。

余談となりますが、ここ上野囲碁センターはＪＲ山手線・京浜東北線の車窓から見える碁会所として知られている。そんな訳で、この会場の窓越しに行きかう電車を「撮り鉄」の気分で眺める楽しみもあります。

・夏季囲碁会の開催

この例会は８月６日（土曜日）に、上野囲碁センターにて参加者１７名で開催し

ました。大会では、前回と同様に、全４試合となるツリーによる対局を堪能しました。なお、組み合わせの関連で小野幹事は世話役に専念しながら、岡メ８目の

気分も楽しんでいました。

試合結果は次のとおり(敬称略)。優勝;柏木　信（１３６)、準優勝;関根　清治（１１４)、第三位;朝井　源一（１５０)。

敢闘賞；田中　潤一（１８５)、中嶋　長重（１２３)、狩野　正夫（１８２)。

恒例の懇親会では８名が乾杯、対局の感想や世事万般の話題で盛り上がり、囲碁談議の余韻をみやげにして帰路につきました。

余談となりますが、この６日には、「東日本復興祈念・仙台七夕囲碁まつり」が「タケフ基金」の支援の下に開催され、プロ棋士と囲碁フアンの交流、対局等が行われていました。

・秋季宿泊囲碁会

この例会は、湯河原町の「娯楽民宿、杉の宿」にて１０月７日（金）から８日（土）にわたり参加者１１名で開催しました。早々に、囲碁愛好家は抽選による相手との全７試合を始め、夜が更けてもパチリ、パチリと対局数を重ねて、交流を深めました。さらに早朝から疲れも見せずに熱戦を再開し、囲碁三昧の二日間を堪能しました。この度、優勝された方は、カノウマジックと呼ばれる技で勝ち星を積み、観戦していた面々も、高段者の見事な着想と手順の妙味を合点していました。

試合の結果は次のとおり（敬称略）。

優勝；狩野　正夫（１８４）準優勝；植田　庫治（１４９）第三位；小野　郁生（１５７）。　敢闘賞；倉本實（１５３）、南　松市（１３９）。

また、この会場は、かつて故藤沢秀行名誉棋聖を塾長とする「秀行塾」が開かれていた由緒ある宿で、若手プロ棋士が塾に集まり修養しました。そして、この夏には中高校生が集う囲碁将棋の強化合宿で２００名を受け入れたとのこと。従いまして、私どもの様なアマ碁会の二つや三つの応援は、お茶の子さいさい、と察しました。

注記：枠内の数字は当人の持ち点で囲碁の力を表わしています。従来は段級位差による置き石で打っていましたが、平成１８年から持ち点制による対戦に切り替えています。ちな

みに１２０点が初段の目安です。持ち点は勝敗の実績によって増減していきます。
参考：平成２３年度東京無線囲碁同好会の活動予定

１．春季囲碁大会	H23 年４月２日(土)	東日本大震災の影響で中止
２．初夏囲碁大会（臨時）	H23 年６月３日（金）	上野囲碁センター
３．搬送・無線親睦大会	H23 年７月上旬	東日本大震災の影響で中止
４．夏季囲碁大会	H23 年８月６日（土）	上野囲碁センター
５．秋季宿泊囲碁会	10 月７日(金)～８日(土)	湯河原町、杉の宿
６．関東電友会囲碁大会	H23 年 11 月 19 日（土）	ＮＴＴ東日本本社
７．年末囲碁大会	H23 年 12 月２日（金）	上野囲碁センター
８．新春囲碁会	H24 年２月３日（金）	八重洲囲碁センター
９．２３年度総会・囲碁大会	H24 年４月７日（土）	渋谷区立勤労福祉会館

新規に囲碁大会の案内を希望される方は、幹事へ連絡してください。
（ 幹事：小野 郁生、植田 庫治 ）

○ 麻雀サークル

（１）麻雀サークル有志による例会「平成２３度上半期」の、第一回は平成２３年６月計画のところ、３月１１日の東日本大震災のあおりで中止のこととしました。大津波、福島原発事故など大騒ぎの収まらない中での麻雀でもあるまいと、中止を決定しました。
（２）無線支部麻雀大会（年１回実施）を７月３日（日）新宿歌舞伎町「新宿メトロ麻雀クラブ」で開催しました。連日猛暑の中、参加２１名（５卓）で盛況に実施できました。

成績は、優勝:加藤實さん、準優勝:日野朝夫さん、三位:中嶋長重さんでした。優勝の加藤さんをはじめ上位入賞者は初回から終始リードしそのままゴールしました。役満もでました。森本さんが国士無双のイーソー積で上がり実力を発揮しました。

支部大会は支部会員全体から参加者を募っていますが、毎年高齢化が進み、参加者の中で８０歳以上が６名、７０歳以上１９名と９０％を占めております。今

後も新規参加を募り、活性化を図りたく、読者の中で興味のある方大歓迎です。認知症予防にも効果があるものと解釈し、刺激を求めて参加してみませんか。

（３）第二回例会（実質２３年度第一回）は、平成２３年９月６日～７日にわたり定例会場である熱海ニューフジヤホテルにて実施のこととしました。

１２号台風も関東地方を避け、秋の気配も感ずる季節に久しぶり、常連メンバーが集いました。

参加者は１１名で２卓実施となり、交代休憩で３名待機の変則ゲームと

なってしまいました。温泉に浸り、夕食はバイキング料理に、アルコール飲み放題でも次の対戦が待ちきれずそこそこに対戦会場に向かいました。

翌日もチェックアウトの１２時近くまで熱戦を繰り返しました。

結果は、一位:岩澤國男さん、二位:中嶋長重さん、三位:鎌田靖彦さんでした。

（４）次回第三回定例会は平成２３年１２月５日（月）～６日（火）の日程として、精進料理の別メニューで忘年会を兼ねて、実施したいと考えております。

多数の参加をお待ちしております。　（ 幹事：岩澤 國男 ）

○ 絵画サークル

平成２３年度のサークル活動はなかなか計画通りに運ばなくて予定の変更が続きました。メンバーの体調不良のため、スケッチ会や打合せの集まりなどが延期・変更で先送りになるなど、そして今年度から展示のスケジュール管理がテルウェルから関東病院の事務局に移管されたため、年間予定日程の決定遅れ等で活動にも大きく影響する結果になりました。

総会を７月４日に横浜で開催、２２年度会計報告と２３年度行事計画の基になるスケジュールの交渉など話し合った。関東病院と打ち合わせの結果、上半期の展示は７月２５日～８月３１日に決定し、ギャラリーに作品１０点を展示しました。絵の制作には皆さん熱心に取り組んでおられその結果、昨年度３月に展示した堀井さんの作品を観た方が気に入り強く要望されて求めに応じられたとのことです。自分の描いた絵が認められることは一段と意欲がわいてくると思われます。次の展示予定は１月なので、これに合わせてスケッチ会と打ち合わせ会などを計画することにしました。

「酔彩会」のメンバーは現在５名なので、これから描いてみたい方、また描かれている方、ご一緒に如何ですか。ご連絡をください。

次に会員の最近の作品を紙上で紹介します。　（ 幹事：白井 静明 ）

水辺の風景　河口　量

江ノ島　堀井 清男

ふるさとの山々　　加藤　實

波紋　　白井 靜明

希望（大桟橋）　　野口 理彦

ドール　　野口　弘子

○　釣りサークル

今年の春の釣り会は、平成２３年７月４日（月）に行いました。
船宿は１年ぶりでおなじみの金沢八景港の「修司丸」です。
天気は梅雨の季節のつかの間の曇り晴れの天気ですが、しかし朝から南風がビュービュー強く吹いているあいにくの天気です。

今回もドコモ同友会との共催ですが節電のためか土、日出勤となりましたので、やむなく月曜日に変更しましたが参加者は少なく、初めて参加の NTTOB の石崎さん、丸山さん、総勢７人となりました。人数が少ないので、船内はゆったりとして大名釣りです。

予定どおり７時３０分に出港しました。今日のねらいは、「アジ」、「キス」です。

約３０分で釣り場に到着。船長の指示に従い、３０号のビシかごに鰯のミンチを入れたアジ仕掛けを２０ｍぐらいの深さに投入、底から１～２ｍ上げて竿を振りアタリを待つが、最初は鰯ミンチの詰め変えての投入を繰り返す。

そのうちコマセが効いてきたのか、２５ｃｍ超える形の良いアジが釣れはじめると、皆さん一斉に竿先に神経を集中させる。
何匹か釣れると、アタリが無くなり、船長が、船を移動させポイントを探しながら、釣場を変え竿を入れたが、大きめのアジ３～７匹釣れたあたりからアタリもなくなり、「キス」に釣り物を変更する。

仕掛けを変える。餌は本来生餌ですが、最近は生餌に似せたゴム状のもので、生き物で無いので針に付けやすい。竿を入れると、すぐに２０ｃｍ超えの流線型をした形の良いキスが釣れ始まる。

その後は、横浜港沖まで行ったりして場所を変えながら釣り、定刻の２時２０分頃に納竿としましたが、まだ強い南風はやみません。
アジは２５ｃｍ超え、キスは１５ｃｍ位～２５ｃｍが釣れ、外道では、イシモチ、カサゴ、さばが釣れ竿頭は２７匹で、平均すると１０～２０匹位でした。
今回はゆったりとした船、「アジ」、「キス」とも、形は大きめで皆さん満足の一日でした。次回秋の天気と大漁を願いながら春の釣り会は終了しました。
釣に興味のある方の新規加入参加大歓迎です。　　　　　　（ 幹事：藤田 克一 ）

○ 寄席サークル

やはり笑いが一番、寄席好き人間大集合

平成２３年の春季寄席鑑賞会は、３月に発生した東日本大震災で大津波、放射能風評被害を伴い未だ先行きが見えない状況下で開催して良いものか悩みましたが何時までも気を滅入らせていては体に悪影響ありと思い開催に踏み切りました。
　４月の下旬に案内を送付し多数の参加者があるよう念じましたが、やはり余震が頻発している中でしたので残念ながら総勢１０名の少ない顔ぶれで寄席の雰囲気を満喫しました。
　入場すると早速、弁当飲み物を配り昼食タイムです。当演芸場は演者が高座で芸を披露中でも飲食自由につきアルコールを味わいながら、落語・漫才・マジック曲芸等を楽しめます。
　参加者の皆さんは開演から約４時間にわたって何もかも忘れて大笑いと拍手大喝采で日本古来の演芸を楽しんでいただけたことでしょう。
　寄席サークルに参加してみたいと思われたら幹事あてご一報下さい。
（ 幹事：片山 克己、仲谷 光正 ）

○ 写真サークル

サークルメンバーは１２名と変わりなく、楽しくやって居ります。

１　例会

①４月２８日　　　TRC 地下会議室　　　１１名出席

②６月３０日　　　　同　上　　　　　　１１名出席

例会は原則として偶数月の第４木曜日としていますが、今年の６月は異常に暑かったため、８月の例会は止めようとの声が多く、結局この２回だけになりました。それでも２回とも１１名の出席がありました（欠席１名のみ)。勿論、先生もお出でになって指導して下さいました。やはり外部講師による指導があると、会に纏まりができて良い結果がでるようです。先生も皆さん上手になったと言われています（お世辞ではなさそうです)。メンバーのなかには地域のサークルなどに入っている方もありますが、夫々に賞を取ったりしているので、上手になっていると思います。私は出不精もあって、相変わらず花の写真ばかりで、先生に呆れられている状態です。

２　撮影会

当たりまえですが、夏は暑い、との声でどうも纏まらず（皆の歳の所為かも）計画なしでした。その後、東京都の敬老週間で入園料無料の施設があることが判り、急遽上野動物園撮影会を提案して連絡してみましたが、急だったのと暑いのとで集まったのは３名。平日ですからパンダもゆっくり見られました。でも修学旅行の生徒や幼稚園の遠足などで被写体に不自由するほどではありませんでした。

３　展示会

NTT 東日本関東病院での展示は事務局が何処なのかも判らず新年度になってから１度もやっておりません。最近絵画サークルが展示を行ったとの連絡があり詳しい話を聞いて、出来れば再開したいと考えています。

この他には、例によって TRC の応接室に飾ってある写真２枚を季節のものに取替えました。これは例会の度に取り替えていますが、今度のように例会を中止すると季節が大きく変わってしまうのでちょっと不味いなと思っています。

（ 幹事：吉田 和衛 ）

○ 園芸サークル

第１回。４月２２日（金)、根津神社つつじ観賞。

江戸時代から伝わるつつじの名園根津神社は社殿、桜門など建物は現在もそのまま残り、国の重要文化財に指定されている。

４月９日～５月５日、つつじまつりとして一般公開される場所は、徳川五代将軍綱吉の兄、松平綱重の下屋敷であったときから「ツツジヶ岡」と呼ばれていたと云う。現在ある種類は、霧島、久留米、琉球等５０品種、約 3000 株があるという。色とりどり見頃をむかえていた。拝観料２００円、参加者は５名でした。

第２回。６月２４日（金)、堀切菖蒲園。

江戸の浮世絵師・安藤広重の「江戸名所百景」にも描かれた名所の一つ。
梅雨時、白や濃紫、淡紫のハナショウブが、7700 平方メートルの園内を埋めつくす。江戸系を中心に２００品種、約 6000 株が集められており、それがもっとも美しく咲き競うのは６月半ば。毎年６月にはしょうぶ祭も行われ、多くの人でにぎわう。入園料は無料。参加者３名。

第３回目、８月１９日（金)、代々木公園のサルスベリ観賞は雨のため中止。

（ 幹事：黒尾　忠行 ）

○ パソコンサークル

２０１１年パソコンクラブ上期の実施状況　４、５、６、７、９月と５回計画通り実施しましたので概要をご紹介します。

1.「第９３回」２０１１年４月２６日（第４火曜日）参加者９名

（1）Ｈ２２年度 パソコンクラブ活動状況報告等　・・ 朝井

（2）フェイスブック　・・・・・・・・・・・・・・・・山形さん

インターネットも進化し最近フェイスブックが話題となっている。特徴はＳＮＳである・世界７７ヶ国言語に対応・twitter と連携・多くのアプリケーションが利用出来る・携帯・スマートホンからもアクセス可能等。

（3）メール転送　・・・・・・・・・・・・・・・・・・川船さん

外出中に、自宅のパソコンメールをリアルタイムで操作したい時、携帯に転送するが､全部を転送すると､時間と通信料が高く付く。着信メールのタイトルのみ転送し、必要な物のみ開けば事足りるが､長文を見るのも書くのも大変なので､助っ人「アイポットタッチ」を使えば便利である。またＬＡN設備があるホテル等では小型 パソコンとして利用できる等優れものである。皆さんも活用してみては如何でしょうか。

（4）その他質疑応答　・・・・・・・・・・・・・・・・全員

2.「第９４回」２０１１年５月２４日（第４火曜日）参加者７名

（1）デジタルテレビ外付ＨＤＤ　・・・・・・・・・・朝井

最近のテレビは、パソコン同様外付ＨＤＤで録画・再生出来る機種が多く出ているが、①外付ＨＤＤを購入の際自分のテレビに対応可能な物を購入する事、②接続方法も ＵＳＢ・ＬＡＮもある、③機種によっては登録等をしないと機能しないものがある、④登録方法が複雑なものも等あり、各メーカーのお客様サービスセンターで対応してくれるが、電話での説明では完結できない場合（出張サービス）もあるので、購入の際、売り場係員に相談するなどしたほうがよい。

（2）自作 パソコン　・・・・・・・・・・・・・・・・林（憲）さん

パソコンを自作する時、パーツは別々に購入するより「相性の関係」から一括購入の法がうまく行くと言われています。

（3）Windows７のインストール　・・・・・・・・・・川船さん

昔はフオーマットしてからでないとインストール出来なかったがWindows７では自動的にやってくれるのでフォーマット不要となった。

（４）作成文書の保存　・・・・・・・・・・・・・・・・・川船さん

パソコンのＯＳも、Windows XP・Vista・７となり、Microsoft Office も 2000→2003→2007→2010 と進化し､各人各様のパソコンを使っているので、Vista・７で作成した文書を保存する際当該機種のみならず、他の機種でも対応できる方法で保存する必要がある

（５）パソコンの時計合わせ　・・・・・・・・・・・・・川船さん

パソコンの時計も時々[時刻合せ]をしたほうがよい。「方法」　時計表示を右クリック→日付と時刻の調整（A）をクリック→時計の下の「時・分・秒」で手動で合わせる事も出来る、また「お任せ合わせも出来る」上部の「インターネット時刻」をクリック「今すぐ更新」「time.windows.com と同期していますと表示、暫くすると時計合せ完了となる。

（６）メールの文字化け防止　・・・・・・・・・・・・・川船さん

Outlook Express で文書を作成中 Excel・word で作成した文書・メールアドレスを「コピーして」貼り付けた場合等受信側で文字化けする事がある。それらを防止するには、それぞれの文書を「一度メモ帳に貼り付け、再度コピーして文書・メールアアドレスに貼り付れば、文字化けは解消される。

（７）その他・・・　もろもろ　・・・・・・・・・・・・全員

３.「第９５回」２０１１年6月２８日（第４火曜日）参加者８名

（１）パソコンの故障　・・・・・・・・・・・・・・・・・小林さん

パソコンのディスプレーの両端に「縦線が出るようになった」原因究明のため、いろいろ試み、外部ディスプレーを接続したら「正常になり」結果ディスプレー不良と判明した。

（２）判らない時はネットに聞く　・・・・・・・・・・川船さん

パソコンは「ハード」と「ソフト」から出来ているのでどちらがＮＧでも機能しない。手順として、①切り分ける、②ソフトが不良の場合は、インターネットに「故障現象を入力して」教えを請い、即返事が来るのでその中から「自分の現象に近いものを選択し」参考にする。

ハードが故障の場合、自己解決は難しいと考えられる。

（３）パソコンの故障（キーボード異常)・・・・・・・・朝井

（キーの配列が「表示と異なる」）例-１「Shift＋８」で「(」を入力したら「＊」が表示され、他を調べたら「アルファベット・数字」以外が異常、「ひらがな/ローマ字」切り替えキー不能などが判明、いろいろ試みた結果「キーボード不良と判断」し、キーボードを取り替えたが変わらず、原因は他にありとメーカーに問い合わせたら「Shift＋２」で何が出るか？「@」が出た、

結果キーボード認識が「英語入力になっているため」との回答、修理可能か否かは現物を見ないと判らない、修理費用は最低 8,250 円との事、修理に出そうか検討中。

（４）グーグルアースの異常　・・・・・・・・・・・・・小林さん

グーグルアースを閲覧中、突然妨害が入り「英文のダウンロード」が始まり、終了処理をしたが操作不能、止む無く「強制的に電源を切り終了した」。ネット妨害の話は聞くが自分で体験したのは初めてでした。誰が何の目的でこんな事をするのか理解に苦しむ、皆さんもご注意あれ。

（５）Windows７のセキュリティ　・・・・・・・・・・・川船さん

通常使っているバージョン「８」→「９」にアップデートしようとすると、メッセージが出てＮＧとなる事もある、また航空会社から来るメールが「文字化け」する時もあり→メールソフトを変えればＯＫとなる等、どうもメールのセキュリティが厳しすぎるような気がする。

（６）タスクマネージャーの表示　・・・・・・・・・・・川船さん

パソコンが何らかの原因で「暴走して、停止出来ない事がある」。そんな時は「タスクマネージャーで終了」するのが望ましく、起動方法「Ctrl＋Shift＋Del」で立ち上がる、後は画面の指示に従って操作すれば「暴走は止まり」終了出来る。

（７）その他　諸々　・・・・・・・・・・・・・・・・・全員

４.「第９６回」２０１１年７月２６日（第４火曜日）参加者９名

（１）最近の携帯事情　・・・・・・・・・・・・・・・・斉藤（雄）さん

携帯電話も時代と共に進化し今やスマートホンが主流になり、乗り物の中、レストラン、道を歩きながら、信号待ちの間も携帯片手に親指操作、まるで子供が「玩具遊び」のように（猫も杓子も）携帯三昧ですが、これから益々進化して「パソコンもテレビもいらない」全て携帯にお任せあれの時代が来るのではと思うのは私だけでしょうか？

（２）パソコンから携帯に「メール転送」　・・・・・・川船さん

パソコンの着信メールを携帯に「転送」する時全部を転送すると「パケット代が高く付き・転送時間も長くなるので、プロバイダーにもよるが「タイトルのみ転送」し必要なものだけダウンロードすれば、経済的・効率的に用がたりる、皆さんはどんな使い方をしていますか？

（３）砂上のアート　・・・・・・・・・・・・・・・・・柏木さん

世界中にはいろんなアートがあるが、今日はウクライナの砂上のアートを紹介します

紙面の都合上一部ですが、現物は「動画」でタイトルの如く「自分の思うがままに」手先だけで砂のキャンパスに描いてゆくさまは、まさに「神業的芸術」とでも言えるのではないでしょうか

（４）パソコンのディスプレーの色と、プリントアウトの色の違い・・柏木さん

ディスプレーの色と、プリントアウトの色違いの原因は何でしょうかね？もしかして、パソコン・プリンター・カメラ・印刷用紙等の、メーカも、規格も異なるためかも知れませんね。ネットで聞いてみれば原因が判るかも知れませね。

（５）テレビ放送デジタル化　・・・・・・・・・・・・・・川船さん

2011 年（H23.7.24）でアナログ放送は終了するので今見てる「アナログテレビでは見られなくなるので、デジタルテレビに変えてと、テレビ・ラジオ等から毎日のように宣伝されていたが、実際には今でもアナログテレビが実在する、有線放送業者（ケーブルテレビ）は後数年間は「アナログ放送」を提供する事になっているとの事、皆さんご存知でしたか？

（６）血圧測定結果のグラフ化　・・・・・・・・・・・・・林（憲）さん

最近血圧が高くなり毎日「朝・昼・夜」血圧測定した結果をグラフ化して見やすくしています。最近の血圧計は小型・軽量・データ保存・平均化等便利な商品が販売されていますのでグラフ化も「簡単に出来」便利です。

（７）パソコン キーボード不良Ⅱ　・・・・・・・・・・・朝井

前号でキーボード不具合で対策検討中でしたが、例会で「システム復元」で回復する事もあるとのアドバイスを受け、実施した結果「運よく回復」し一件落着。

（８）その他 諸々　　例会終了後、今年度の前半終了に伴い有志で茶話会（暑気払い）をし、次回（９／２７）に再会を約して散会。

５.「第９７回」２０１１年９月２６日（第４月曜日）参加者９名

（１）「きれいなプリントアウトを得るために」　・・・・吉田（哲）さん

今回は特別講師として無線支部カメラクラブの吉田（哲）さんに、解説していただきました。

現物と同じように（特に色合い）に仕上げるには、それなりのソフト、技法・技術・機材・プリント用紙等が必要だが、今回は特別でない方法（Adobe Photoshop Elements 6.0）による処理

１．画像補正　(ｱ)明るさ補正　(ｲ)色合い調整　２．画像修正　３．トリミング等

（ｱ）明るさ補正　①画像の上で右クリック→プログラムから開く→（Adobe Photoshop Elements 6.0）をクリック「スタンダード編集」画面が開く

２．画質調整→ライティング→シャドウ・ハイライト→明るさ・コントラスト→レベル補正等である程度調整が出来る。

（２）画像の合成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・川船さん

パノラマ撮影した写真、一部分を合成して一枚の写真にしたい時など、いろいろなソフトがありますが、ここでは「Adobe Photoshop Elements」による合成、写真を選定すれば、自動で合成してくれるので便利です

（３）パソコンのメモリーの整理・整頓・・・・・・・・・・川船さん

パソコンを長期間使用すると表面に出ない不要なデータ等が蓄積され、処理スピードの遅延（イライラ病）・メモリー不足等の原因となる、そこで今回は「C Cleaner」で パソコンの不要なデータ等を処分し、綺麗に整理すれば、処理スピードも上がり、メモリーの有効活用もはかられる、ネットから無料ダウンロードできる、優れものですよ。

（４）ソフトの共通化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・川船さん

ネットからダウンロードした無料ソフト・有料ソフト等を、一般的には パソコンにインストールするが、USB メモリーに保存すれば、どのパソコンでも自由自在に使うことができ大変便利です。

（５）パソコンの起動時間の短縮　・・・・・・・・・・・・・林（憲）さん

常時はパソコン終了時「電源 OFF」とするが「休止状態」に設定すれば、通常の立ち上げより、かなりの時間短縮ができる。方法は「スタート→コントロールパネル→パフォマンスとメンテナンス→電源オプション→詳細設定→休止状態→OK。電源が ON 時の操作は通常と同じです。

以上が上期の概要です。　（ 幹事：朝井 源一 ）

○ 東京地区ゴルフサークル

第２６回東京地区ゴルフコンペが平成２３年６月１４日に昭和の森ゴルフコースで行われました。今回４月に予定されましたが、東日本大震災により予定を控え、延期しまして６月の今日に致しました。雨期に入り雨が気になりましたが運良く曇り時々晴の気候で楽しくプレーを行うことが出来ました。

何時もならハナミズキの花が綺麗に咲いている頃であったが、今は緑の葉に覆われている。グリーンも若葉が一面に清々しい中でのプレーを行う。今回の参加は１名欠席で１０名と少なめであったが、特別参加で岩澤さんが加わって頂きました。半年ぶりの皆様の元気な顔ぶれに話しも弾む中でプレーがはじまる。コースは短いがそれなりに設計されており､思うようには出来ないのが常の様である。最初の意気込みがいつの間にか薄らいで行くホールアウトの様でした。

結果はハンデキャップ戦で優勝は､最近進歩の著しい原邦男さんがグロス９０、ハンデ１８、ネット７２で取り､準優勝は藤井一明さんがグロス９８、ハンデ２０、ネット７８で取りました。三位は木目田さんがグロス９６、ハンデ１５、ネット８１で取り入賞しました。ドラコン賞は若きエースの原さんと、ベテランの木目田さんが取り、ニアピン賞は原さんと岩澤さんが取り終了しました。

競技終了後は表彰式と共に懇談に楽しい一時を送り終了することが出来ました。秋の再会を期し解散致しました。　　　　　　　　（ 世話役：都築 靖明 ）

○ 神奈川地区ゴルフサークル

第４３回神奈川地区、湘南ＯＭＧゴルフコンペを平成２３年５月１６日（月）に鎌倉パブリックゴルフクラブにて開催しました。

当日は穏やかな薄曇のゴルフ日和で、雨の心配もなく、良好なコンディションでプレーが楽しめました。参加者は丸山さんの初参加もあり、１６名の計画でしたが、直前に体調不良で２名の欠員が生じ、１４名（４組）でのスタートとなりました。

結果は 優勝:原邦男さん、 準優勝:多田寛五さん、三位：山口恒孝さんでした。

今回も東京地区との相互交流で３名（原・木目田・都築）の応援参加を得て、１４名の参加で日頃の成果を競いました。さすがシングルプレーヤーの小澤さんは GROSS ８２でまわり、本領を発揮しておりました。プレー終了後の表彰式、

懇親パーティも和やかなうちに終了し、次回秋のコンペ世話役幹事は原さんにお願いすることとし、無事解散となり帰宅の途につきました。

（ 世話役：小澤 文博、岩澤 國男 ）

○ 千葉･茨城春季ゴルフサークル

恒例の千葉・茨城ブロックの春季ゴルフコンペを、５月２０日（金)、新緑の香りに包まれた茨城県行方市にある「セントラルゴルフクラブＮＥＷコース（ＪＴコース)」にて開催しました。

この地域は３月１１日の東日本大地震の影響も大きかったらしく、コースに向かう途中にも、ブルーシートをかぶった家、道路の修理跡など地震の爪あとがいたるところに見られゴルフをやるのが申し訳ない思いがしました。

当日の天気は一日を通して快晴。２４名のメンバーが、気温も３０度に達したのでは？と思わせるようなまぶしい太陽を浴びながら一日ゴルフを満喫しました。

このコースはセルフプレーを前提として作られたとのこと。クラブハウスもヨーロピアン調で、おしゃれで肩のこらない感じの素敵なコースで、距離はあまり無いのですが１グリーンでうねりも強く戦略性に富んだコースでした。

今回は日程調整が悪く、電友会無線支部の役員会と日程が重なってしまい、朝恒例となっている渡部地区幹事の挨拶もいただけずルールの説明、初参加の西誠一さんの紹介の後、アウトコースとインコースに分かれスタートしました。このような中で無事全員がホールアウトすることができたことは幹事としてはホットしています。

さて成績ですが、「最近は何もすることが無くなって毎日ゴルフの練習ばかりやっている」という名越利昌さんが、アウト４５、イン４６、グロス９１、ネット７１の１アンダーで堂々の優勝。前回の池田さんに続き高齢者（？）の優勝となりました。私も

同じ組で回りましたが、恐れ入りました。以前とは別人のようなゴルフでした。

準優勝にはパワーマンの安井健さん、第三位には第２４回に続き伊藤方利さん、ベストスコアはアウト３８、イン４２の８０の好スコアで小野塚修二さんが腰痛に打ち勝ち獲得しました。また、ニヤピン・ドラコンを獲得したのは

ニヤピン３番ホール：浪川勝成さん、中込和男さん、１４番ホール：浅野正幸さん、池田守さん

ドラコン９番ホール：安井健さん、中込和男さん、１８番ホール：小野塚修二さん、萩島達夫さんということになりました。

次回は、会場が千葉地区になりますので、浪川勝成さんのホームコースである「成田東カントリークラブ」での開催を予定しています。

時期は１１月頃と考えていますが、初めての試みとして他ブロックの方の交流参加者の募集を検討しています。時期になればご案内しますのでよろしくお願いします。

（ 世話役：岩本 壽雄 ）

○ 埼玉地区ゴルフサークル

第２３回埼玉地区春のゴルフコンペを、平成２３年５月１８日（水）いつものリバーサイドフェニックスゴルフクラブで開催しました。

参加者は９名と幹事がひさしぶりに驚く人数でしたが、高齢化と体調不良の連絡が多く、次回に期待しつつスタートしました。

天気やコンディションも申し分無く、皆さん良いスコアの勝負となりました。

優勝は林憲男さんで、グロス９２ネット７３でした。当ゴルフ場の貸出ショットナビで、距離やグリーンの情報をゲットしながらの頭脳プレイをひそかにして

いたようです。また技術アップのためコナミハイテク装置練習をしているそうです。準優勝は菅原修さんが実力を発揮しグロス８５ネット７５でした。ドライバーはブレていましたがリカバリーで決めていました。３位は石原勇さんでグロス９２ネット７６でした。特にグリーンまわりの練習に力を入れており、パターマットで毎日練習しているとの事でした。特に年をとってからのゴルフは楽しいと感じているそうです。ＮＰは中田隆士さん､岡田巌さん、菅原修さんでした。

プレイ終了後の懇談会では一人一人のスピーチを受け、健康のこと、ゴルフの楽しいこと、スコアを伸ばす努力している事など懇談し次回また会う事を約束し散会しました。

（世話役：杉沢　稔）

○ 東京地区ハイキングサークル

春のハイキングは、梅雨時のため、天気予報に振り回されました。６月１２日の予定でしたが、１３日に延期したところ、１３日も雨の予報で、結局１４日に実行となりました。その為に参加者は石井、鈴木、成岡、神奈川地区から参加の岩澤、と世話役の木村の５名でした。

田園都市線の二子玉川駅に１０時に集合し、１０時１０分出発、二子玉川駅周辺はすっかり整備されたのには驚きました。多摩川沿いの土手道を下流の方に歩き、工事中の東急自動車学校跡地の先を左に曲がり、鈴木さんが持ってきて呉れた航空写真の地図を頼りに、最初の目的地である玉川野毛町公園を目指しました。途中の道端の案内図に助けられ、やっと公園に辿り着き、ゆっくり一休みしました。元気な人は、園内の野毛大塚古墳に登ってきました。

第三京浜を横切り、地図を頼りにゴルフ橋のたもとの、等々力渓谷の入口に辿り着き、渓谷への階段を降りて遊歩道に着きました。この渓谷は、東京２３区内に有りながら、まるで別世界のような、静かさと緑に溢れた所です。

遊歩道は昔より整備されていました。第三京浜の下をくぐり、横穴古墳を探索している頃に、雨が激しくなってきました。前に下見してあった、庭園広場の書院に急ぎました。幸いに書院の軒下に５人が入れる場所があり、雨に濡れることなく昼食を済ますことが出来ました。

１２時半には雨も上がり、ほっとしました。少し渓谷を戻り,稲荷堂と不動の

滝に来ました。今では、一筋の水が落ちているだけですが、昔は滝の音が渓谷に響くことから、この辺りの地名が「とどろき」と命名されたとのことでかなり大きな滝だったようです。不動の滝から、急な階段を登ると、等々力不動尊となります。不動堂本尊は、山城国（京都府）からこの地に移ったものとのことです。

お不動様の境内で一休みし、前の自動車道を下って行くと、丸子川にぶつかります。この川に沿って川下に歩を進めました。川面を眺めながら、１時間ほど歩くと、多摩川台公園の西のはずれに着きます。公園の中に入り、亀甲山古墳を始め、数個ある古墳群の裾を東に歩き、終点近くに本日の目的地、あじさい園があります。まだ、最盛期ではありませんでしたが、綺麗な花々を楽しむことが出来ました。すぐ近くの、東横線多摩川駅で解散しました。

（ 世話役：木村、小林 ）

○ 千葉・茨城ハイキングサークル

弘法大師伝説の山から鶴巻温泉へ・・・

当初は「今年あたり富士山にでも登りたい」という意見があり、支部全体に声をかけて・・・などと検討しているうちに３.１１東日本大地震が発生し、テレビで連日被災状況が報道されるようになり、被害に遭われた人たちのことを考えるとハイキングどころではない状況になりました。

そこで、中止か・決行か、関係のみなさんが集まって話し合った結果、今回はささやかに実施することなり、丹沢の山々に囲まれ、名水の里で知られる秦野を起点に「弘法大師伝説の残る弘法山から鶴巻温泉」となりました。

期日は５月２１日（土）集合場所は小田急線秦野駅。この日は文字通りの五月晴れで、集合時間の午前１１時に集まったのは吉村さん、小林さん、渡部さん、北上さん、秋山さんご夫妻、神奈川から加藤さん、それに幹事の内田さん、増田さん、窪田の１０名のみなさんでした。

秦野駅前からまほろば大橋を渡り水無川沿いに歩き始めて１０分で「弘法山公

園入口」の看板が見える。細い小道を入るとすぐに階段がある。この階段を登りきればもうそこは浅間山になる。さらになだらかな山道を１０分ほど歩くと権現山に着く。ここには秦野出身の歌人前田夕暮の歌碑や野鳥観察所がある。

　権現山をすぎ、馬場道と呼ばれる尾根道を２０分ほど進むと六角の展望台のある弘法山に出る。弘法山の由来は弘法大師が遷座の護摩を修めたことから命名されたとのことである。山頂には釈迦堂や鐘楼、乳の水があり、桜の季節にはお花見気分での人出が予想されるほどである。

　早速、われわれも手ごろな広場を探し、昼食の宴？を張ることにした。なんと言ってもハイキングの一番の楽しみは昼食の宴であり、各自が持ち寄った手作りのお弁当やおかず・つまみを肴にのどをうるおすともに話がはずみ疲れもとれるようである。

　持参した弁当や飲み物をすべて平らげたところで、吾妻山経由で鶴巻温泉に向け出発した。ほぼ平坦な山道を歩いているうちに吾妻山、ここから鶴巻温泉までは下りが続く。高速道路の下をくぐって右折すれば鶴巻温泉駅だが、その手前にある日帰り温泉「鶴巻温泉会館」でハイキングの疲れを洗い

流していくことにする。行楽日和とあって会館内は芋を洗うような混雑ぶりで、洗い場も順番待ちのため、ラッシュ時のトイレよろしく裸で一列に並ぶ始末。お風呂はカルシュウム含有量日本一の名湯と言われており、みな若返った気分ですっきり。「鶴巻温泉会館」前で次回ハイキングでの再会を約し解散、思い思いに鶴巻温泉駅に向かった。みなさまお疲れ様でした。　　　　（ 世話役：窪田　達 ）

○ 埼玉地区ハイキング

「あじさい」の大平山、晃石無線中継所と蔵の街とちぎ

春のハイキングは早めに計画を立てて・・・と思っていた矢先、３月１１日、東日本大震災が発生、大地震・大津波・原発・放射能・風評・液状化 etc・・・、呑んびりとハイキングを楽しむと云う雰囲気ではなくなりました。

結果、計画が遅れ、春のハイキングと、銘打ってはいましたが、猛暑厳しい真夏日に実施いたしましたので報告をいたします。

桜、新緑はとうに過ぎ、遅れついでに「あじさい」をメインに楽しもうと云う事で、行き先は「大平山、晃石無線中継所、蔵の街とちぎ」に決めました。

早朝からジリジリと熱い太陽が照り付ける７月２日（土)、東武日光線、新大平下駅に９時半に集合しました。連日の猛暑続きや事前の案内で約 1,000 段もの石段を下るとの記載が敬遠されたのか集まったのは４名だけでした。

当初計画では駅より謙信平までは約１時間半をかけて歩くことにしていたのですが、あまりもの暑さなので、熱中症、体力温存のため、タクシーに変更をして謙信平まで登りました。

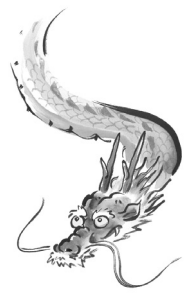
謙信平は戦国時代の武将、上杉謙信がここからの眺めの素晴らしさに感嘆した場所と云われており、富士山の遠望こそ出来ませんでしたが、県立公園にも指定されており、「陸の松島」と云われる眺望は感動ものでした。お目当ての「あじさい」も青、朱、紫、白、と周辺のあちらこちらに咲き乱れ楽しませてくれました。また、地元栃木市生まれの文豪「山本有三文学碑」もあり、「路傍の石」の一節だった文言が刻まれておりました。

眺望を満足した後、大平山山頂の先 600ｍにある「晃石無線中継所」へ向いました。往きは登山者に開放されている無線中継所への保守巡回道路を歩きました。宇都宮～甲府、外環状ルートの中継所として大きなパラボラアンテナが何面も搭載されていた鉄塔は、今はドコモ様の携帯電話アンテナが載っているだけでした。

復路は来た道の巡回道路は使わず、尾根伝いに木の根が露出して滑りそうな登山道を登り太平山の頂上（341m）へ、ここにある富士浅間神社に参拝、記念写真を撮り、太平山神社に下山しました。境内にあるお土産店の展望台をお借りしてお楽しみの弁当時間。所場代は缶の飲み物で帳消にしてもらいました。

昼食を済ませいよいよ本日のメインがはじまりました。朱塗りの隋神門をくぐると西洋アジサイをはじめ額アジサイ、山アジサイなど約 2,500 株が咲き誇る大平山神社の表参道「あじさい坂」の下りです。色とりどりのアジサイを楽しみながら、ゆっくりと 1000 段の石段を下りました。丁度、「とちぎあじさいまつり」の開催期間中と云うことで、暑さにもかかわらず大勢の観光客で賑わっておりました。下山後、国学院栃木高校バス停よりバスを利用し、次の目的地「蔵の街とちぎ」に向いました。

とちぎは日光例幣使街道の宿場町、巴波川船運の物資集散地として栄えた、かっての商都としての面影を今に残しており、「蔵の街栃木」と言われるだけあって、店舗用の「見世蔵」や物資用の「土蔵」など約 450 棟を超える蔵があり、今も江戸の情緒が漂っております。バスを巴波川に架かる幸来橋で下車し、栃木駅前から延びる蔵の街大通りに出て、小江戸ひろば南蔵、とちぎ蔵の街観光会館、山車会館、とちぎ蔵の街美術館など多くの重厚な蔵を見ながら再び巴波川に出ました。とちぎの観光ポスターでは必ず紹介されている「蔵の街遊覧船」乗り場で一休み。ここは川の両岸に蔵が立ち並び、手漕ぎの遊覧船が行き交っており、絶好のシャッターポイントです。一休み後、うずま公園を通り栃木駅へ、解散。暑くて長かったハイキングの一日は終わりました。

（ 世話役：髙尾 忠男 ）

４　干支だより

　平成２４年に干支（辰年）を迎える会員は、６５名（内訳は大正５年：２名、昭和３年生：２４名、昭和１５年：２３名、昭和２７年：１６名）で全体の 10.4%、そのうち３０名の方から近況、干支をむかえる感想などをいただきましたのでご紹介いたします。

相原　誠男
１．本年４月にしばらく（８年間）勤務させていただいた東北圏より千葉に戻ったと思いましたら即、待ってましたと町内会の長老より声がかかり、事務局長になる大役を仰せつかり、不慣れながら奮闘努力をしております。
２．<夏の節電対策と体のバランス感覚>サラリーマン生活４０年を迎えた今年の夏は節電対策で土日の週休が月火に変更となり、７月初旬より９月末迄続けられた。この間土日の仕事は何故か気が緩んでしまう違和感を感じてしまった期間があった。長年の間に月火は仕事する日、土日は休みと言った習慣化された体とのギャップのため感じるのかも知れない。この３ヶ月を経て、変に慣れた月火休日のサイクルが１０月初旬からの前のとおり土日休日に戻った時の体の時間的バランスがややおかしい。これも年のせいにせず、早く従前のサイクルに戻したいものだ。多分この冬はなくとも来年の夏にそなえて！

浅井　弘一
　昭和２０年、２０才まで生きていることはないと思っていた時から、その４倍も生きてきてしまった。
　B29 から投下された 250K(g)爆弾の爆発孔から、３ｍのところで無傷で生き延びてきた後。
現実は、私はその時死んでいて、今の自分は、もし生きてたらこんな人生だったのだと、あの世から架空の現在を見ているのではないかと思うことがある。振り返れば、いろいろなことがあったけど、先ずは幸せな人生だったと思う。一か月～一か月半毎の病院通いで、何の検査をしても頭に「高齢を加味すれば」の定冠詞が付く。先ずは年相応といったところか。１２月生まれなので､干支の実感はない｡乱筆陳謝。

浅野　孝一
　体調をくずしてしまい、津田沼の会合には欠席いたします。皆様によろしくお伝えください。

荒井　近信　（奥様　代筆）
　いつもお世話になってます。一人では、ままならないので集まりは遠慮させて下さい。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

池澤　清

１．持ち回りの町会役員を務めたきっかけで町会のボランティアを要請され、花壇の植栽手入れ、防犯パトロール、災害時の被支援者の支え助け合いのボランティア家族の助けを借りて行っています。

２．今年が生まれて８度目の干支を迎えることになりました。周りの方々の支えに助けられ今日を迎えることになりました。周りの方々の支えに助けられ今日を迎えられたのは望外の喜びですが、それ以上に周りの方々に対する感謝の気持ちで一杯です。公私を共にし、解り合えた方々も多くの方が遠くへ旅立たれ、今はとても寂しい限りです。遠出することは難しいのですが、日常生活は自力で出来ますので、現在のささやかなボランティアを健康が許す限り､続けて行こうと思っています。

植田　庫治

私は､昭和１５年(紀元二千六百年)正月に軍港の街､横須賀で生れました。その翌年の１２月に我が国は対米開戦した。意外にも｢昭和１６年夏の敗戦｣（猪瀬直樹著）によれば国力差の研究・評価を見ても見ぬふりをして、悲惨な結果を招いたとのこと。やがて、小生は戦後の６－３－３制の下で小学生となりました。幼少であった頃に母から｢オテントウ様がみているからね｣と危ない遊びや嘘つきをタイムリーに注意され、青年期には「親を安んずるほど大なる孝はなし」と父から諭された。今では、その徳育（？）に感謝しています。また、数年前に干支の辰、龍の伝説の「三級浪高魚化龍」と登龍門の由来を書かれた色紙（賀誕生）を拝見し、老師の叡知と筆力に感銘しました｡その色紙に添えられた手紙には､「龍王が神々を引きつれ、天候を支配し、大地を潤し、人の世に益した」との解説がありました。思えば、国政の迷走、国防・外交政策の混乱など刺激に富んだ歳月を過ごしてきましたが、その時間の３分の１は｢枕を高くして｣寝て居ました。しかし、北方の島々や尖閣諸島と、フクシマの事態は懸念しております。

おかげさまで、９月下に整形外科を卒業しましたが、視力検査（１回/月）のため通院中。その上に、細君が「亭主在宅ストレス症候群」にかからないよう気を遣っています。そして、とかく忘れがちなことですが、大自然を畏怖し、その営みに感謝して、できるだけ静謐な生活を送りたいと思っております。今さら鯉の滝登りの真似はできませんからね。

碓井　孝義

《雑感》来るな来るなと言っても来年は、７回目の干支を迎えることになりました｡最後まで病院の世話にならず､自分の体を使い切って逝きたいものだと、夢を見ていた時もあったが、７０代も半ばを過ぎる頃から、体がそんな

我がままを許してくれません。

　整形だ、皮膚科だ、内科だ、そして一番悪いのが泌尿器科と、いろんな先生方のお世話になっています。５年ほど前、市の老人福祉センターで、「南京玉すだれ」と「どじょう掬い踊り」を習い有志で同好会を作って練習を続けています。地域の老人ホーム、ケアセンター、老人会、夏祭り等で発表して、自己満足しています。最近、多少知名度が上がったかな？彼方此方から声が掛って来るようになりました。嬉しいささやかな悲鳴です。とにかく、頑張って、頑張って出来るだけ長く続けたいと思います。

大塚　昭典

　健康不良のため、地区懇談会は欠席します。

鎌田　靖彦

《地域貢献活動》現在、資格取得に取組中で、ほぼ目途がつきましたので、上手くいけば来年度位いからお役に立てるかと。詳細は、実行できたらご紹介させて頂きたいと思います。

《健康・感慨》年を取るのはほんとに早いなーと、つくづく思いますが、持病をキチンとコントロールし“知らないことを知る”ことに取り組んでいます。昔からの友人や仲間が少しづつ欠けて行くことが増えてきて、さみしい思いもありますが、やること・取り組むことが、多くあることはハッピーかなと（思います）。

木下　文雄

《地域貢献活動》　愛犬と一緒に「犯罪ゼロ」を目指し、「喜多見わんわんパトロール」で活動しています。残念ながら今はこれが限界です。

《感慨》　早いもので、来年は６回目の「干支」。ゴルフで言えばパー７２の最終ホール。トリプルあり、イーグルありのラウンドだったが、メンバーに恵まれ楽しかった。ホールアウト後は「地域貢献」に力を注ぎながら、１９番ホールを堪能したいものだ。

小林　昭男

《地域貢献活動》　体調不良のため休止中。

《健康・感慨》　８０才を過ぎ大きな病気を得てしまいＯＢ会等の諸行事に参加することが困難になりました。今まで年二回のハイキングは、小生にとって楽しみの一つでもありましたが残念です。元気を取り戻したら、是非また仲間に入れてください。電友会東京無線支部が、今後共、発展することを祈ります。

小林　正志

《地域貢献活動》　平成８年より地域の体育協会役員を引き受けたのが運の尽きで、高齢化社会の影響をまともに受けて辞めるに辞められずズルズルと・・・・還暦を迎える来年こそ上手

にバトンタッチで、やりたかった事に向って一歩前へ！

《エコ取り組み》　家庭のエコ位なら何とか対策を打てそうだと、リタイヤ前からチマチマとあちこち対策を打っています。

- ◎ 白熱電球の廃止（LED 球はもうすこし安くなってから）
- ◎ リモコン電池の充電化（エネループが大活躍）
- ◎ 待機電力の撲滅（コンセント毎にスイッチを）

このまま進むと、近い将来には家庭内の直流化が現実味を帯びてくるような気がします。

現在、NTT 東日本が試行している「電力見える化」のモニターに参加中です。「電力みえる化」紹介ホームページあり。

http://www6.plala.or.jp/kajimachi/mielca

後藤　実

今、身辺整理を一生懸命やっております。まず、やばい物は早めに捨てました。溜まったテレホンカードに記念切手は、二束三文でしたが売り飛ばしました。記念硬貨は、原価でしか引き取らないと言うので、普通の硬貨代わりに使っております。また銀塩カメラや交換レンズもハードオフであきれるほどの値段でしたが、手放しました。その他家の中は、ガラクタで一杯です。元気なうちに片付けねばと思っております。

この間古希になり今度は、６回目の干支を迎え、最近、真面目にエンディングノートに取り組んでおります。

斉藤　兼雄

《地域貢献活動》私の住む街は、昔は住居専用地区でしたが、今では商業地域に変わり高層マンションだらけになって新住民が増え、60 年以上も前から暮す私たち先住民とは、ほとんど交流がありません。地域貢献活動などまるで夢のようです。

《健康・感慨》とうとう七回目の年男ですが・・・長く生きてるなーと自分でも感心しています。私は六男四女の末っ子で、父母は勿論兄姉全てが既に他界、息子や孫達とは生計が別ですから実態は女房と二人きり、仲良く喧嘩しながらの毎日です。かかりつけの病院からは幾つもの病名を告げられて、生活指導では「あれも駄目、これも駄目」と制約を受けている始末、そんなわけで地域貢献はおろか、自分の体だけで一杯です。何年か前までは最寄り駅前の自転車整理や、外出不自由な独居老人（私も似たようなものですが）の買い物ボランテアみたいなことをやったことがありますが、「己の始末も満足にできないくせに、人様どころの話ではない」と、まず自分達「爺・婆二人」の日常生活が継続的自己解決出来るようにとシフトしたところです。

唯一不自由しているのが長距離の移

動手段「くるま」を始末した結果こんなに世間が狭くなるとは思いませんでした。今は専ら公共交通機関や徒歩による移動です。くるま時代に気が付かなかった裏通りの隠れた風景を見ながら､｢これもエコ取組の一つかな」と一人納得しています。

齋藤　隆

１８の時から４５年に亘った、会社勤めから解放されて早くも９年、正月に６回目の干支を迎えます。

今思えば５２～３歳の頃、定期健診で禁煙・減酒・軽い運動を勧められ、素直に実行に移したのが、今の健康に繋がったようです。

最近は、漸く日々の過ごし方に慣れ、退屈に感ずることが少なくなりました。

これからもストレス解消・体力維持のために「継続は力なり」をモットーに、次のことは続けます。

① 節酒（飲まない日数、年間 200 日前後）1994'から１９年目。
② 禁煙 1996'から１７年目。
③ 早歩き（毎日６Km 弱、年間 250～300 日）雨天は休みで 1998'から１５年目。

○目標　短命な家系ですが、アト数年“喜寿”までは、日々是好日、周囲に迷惑をかけずに元気に過ごしたい。

○夢　孫共も成人に達する７回目の干支（2024 年）を迎えられたら、望外の幸せ。米寿は、夢のまた夢ですね。

佐藤　喜代雄

私こと、本年３月で９５才になりました。足の弱さを除いては至って健康です。健康の秘訣は何かをやり続けることと悟りました。碁、将棋、麻雀、ほぼ卒業です。今年の３月から中国語をやり始めまして、NHK さんに感謝しています。

家族の者から今からそんなのやってどうするの？って、言われましたので、近くあの世に行ったら中国の閻魔大王にあって一寸お聞きしたい事があるので、今勉強中だと答えました。家族の者がもっとまじめなものをと言うので、いいや、やりかけたものは最後までやりとおすのが私の主義です。と言ったら中国と心中なさいと言われました。もっと長生きしたいからやっているのです。と答えました。

では、再見（ﾂｧエチャン→See you again）の意味です。

佐藤　榮

巡り巡って７回目となり、大変貴重な人生経験をさせてもらいました。振り返れば、昭和１８年（1943 年）５月横須賀海兵団に入団し、即久里浜海軍通信学校へ入校し、翌１９年春卒業。戦地への転任予定の船便待ち所で、順次転任した友人の戦死を風の便りで知り大きなショックでした。現在の中学３年卒業の春と同年齢で、現実の厳しさを感じ驚いたことです。その後、昭和２０年東京大空襲の焼け跡のＪＲ亀

戸駅一帯に山積みされた仏の数々。何の罪で野ざらし、山積みか？考えさせられました。原爆２発終戦、焼け跡のみ、目の前に何も無い東京が思い出されます。その後、神戸大地震そして今年の東北大地震など、大変な時代を経て、先輩、友人、知人にお世話になり、これからも周囲の人達に感謝し迷惑をかけないように心掛けていきたいと思っています。

渋澤　良光

さて、干支「辰」満「６巡目」完了目前、７巡目に入る。「論語」を借りれば、「吾１巡目にして、学に志し。２巡目、３巡目にしてやっと立つ（？）。４巡目にして大いに惑い。５巡目にして未だ道半ばを知る。そして６巡目にして未だ耳従えず。」で流れてきた。
果たして７巡目、「従心所欲、不踰矩」と言うところに着地するのだろうか。

一昔前、６０歳は既に老人（扱い）だった。今、後期高齢者は７５歳、未だその域にも達していない。何のこれからと「自治会長」を買って出た。ついでに（？）「環境委員」やら「統計調査員」まで引き受けて、おまけに近くの「鷺栖神社」の「祭事」まで担ぐことに。足腰は勿論、歩くこと遅遅、痛みはあちこちに散在、何のこれしきで奮闘中。このポンコツでも地域では未だ若手、必要なうちは必要とされていたい。先日、米国のさる大学で「貪欲であり続けろ、愚かであり続けろ」と日本人には一番難儀なことをスピーチした「現代の寵児」がいた。誰でもが出来ないからの言であり、誰でも可なら埒もない。常人、欲もあるが、愚でもある。しかし、中途半端なものなのだ。さてと、「干支」７巡目完遂に向け、世に求められれば「小さな欲と持ち前の愚」でクリアしてみたいものだ。

髙尾　忠男

《走ること》若い時から山登りが好きで、50 歳を超えた頃より、もう一度これまでに登った 3000ｍ級の山を、お浚い(ｵｻﾗｲ)しようということで夏山を中心にまた登り始めた。

このため足腰の鍛錬でジョギングをしていた。ある時ジョギング仲間に誘われてホノルルマラソンを走ろう・・・と云うことになった。

山道なら何時間も荷物を、背負って歩くことには馴れていたが、平地とはいえ今度は 42Km 以上も走り徹す(ﾄｵｽ)と云うのである。にわか練習でスタートラインに立ったが、ゴールは青息吐息の苦しいものであった。

しかし不思議にも、もうこんなにも苦しいものは二度と御免・・・とは思わず、来年も、また・・・と思っていたのである。1998 年、今から 14 年前のことである。

その後、走る仲間とサークルをつくり週末は練習に励んだ。
サークルには下は 18、9 の女の子から上は私の３歳先輩まで。まさに老若男

女である。全国各地で開催されるマラソン大会にも彼らと一緒に参加し楽しんでいる。日誌によればこの14年間で参加した大会は156回、大会走行距離の総計は3,594Kmになっている。

週末などの練習会を含めると記録には留めていないがこの３～４倍（1万３千Km以上：地球約1/3周）は走ったことになるだろうか。

お蔭様で体重は54～56Kgをズ～ットKeepしている。2007年初回の東京マラソン、サロマ湖100Kmウルトラマラソン、またゴールドコースト、バンクーバー、ローマなどの海外マラソン完走も楽しい想い出となっている。体力は歳と共に確実に衰えているのを感じさせられる。走行距離、ゴールタイムは気にせず気楽に楽しく可能な限り、今後も走り続けたいと思っている。

田口　農雄

《地域貢献活動》　森林インストラクター杉並会で、都立和田掘公園の済美山自然林の整備活動。また、公園管理センターと共同で児童に森の素材を使ったクラフトづくりの指導。

《健康･感慨》山や森に入り歩くこと、自然観察を楽しんでいます。

６月は２週間小笠原に滞在し、返還祭と世界遺産登録のお祭りに遭遇しました。7月は八ヶ岳縦走、８月 三頭山三回登山、９月 会津駒ケ岳、燧ケ岳登山と元気に過しています。

森林インストラクター東京会は、林野庁から高尾山森林ふれあい推進事業を受託していますが、その講師としてお客さんを案内しています。

人間健康でも寿命はわかりません。日々をしっかり楽しみたいものです。

武井　清六

公社退職後を含め６０余年皆様方のお世話になりながら、今年７回目の辰年を迎えることができましたことに感謝しています。

戦後上京、余り大きな希望もなかったが、東京で小高い丘に住み、年何回かドライブがてら家族揃って帰郷できたらというささやかな願いでした。

それが今は、坂道が多いので息切れに苦労し、家族の勧めで車の運転を止めたら行動範囲が狭くなり、趣味の菊作りは大鉢から小鉢に、好きな麻雀は週単位から月単位と減少してきました。勿論、田舎へは特急｢あずさ｣となり、日頃、タクシーを利用すればと云われますが、貧乏性から余り乗ることはありません。お陰様で、食欲だけはありますが、美味しいもの間食など控えなければならないのが現状です。メモ帖で増えているのは歯科、眼科を含めた医者通いです。

ともあれ、人生の大部分をご一緒した大好きな無線の方々とこれからも更に親交を深め、健康で明るい毎日を過していければと念じています。

田辺　信雄
《地域貢献活動》体調を崩して居りましたが、悪いなりに安定して来ましたので､いつまで続くかわかりませんが、地域の小学生通学時の防犯パトロール活動に微力ながら参加して居ります。
《健康・感慨》何時の間にか７回目の辰年を迎え、案内状を戴くまで気にも掛けていなかったので、我ながら無関心さに驚きです｡(暢気も長生きの秘訣か？)｢会員の近況だより｣を楽しみにしていますが、特に健康法等の話は、大いに参考にしています。末筆ながら皆様の健康とご多幸を祈念致します。

仲谷　光正
《地域貢献活動》公民館事業としての健康ｳｵｰｷﾝｸﾞｸﾗﾌﾞのスタッフとして､年間７回７０～８０名の参加者を引率し気分爽やかな山・川・林・田園歩きを楽しんでいます。
《健康・感慨》故郷島根県を後にし昭和３３年４月座間特電に採用され、早や５３年が経過し、いつしかこの世に生を受け６順目の干支を数える年齢となりました。
　お陰様で現時点まで大きな病気にも襲われず生きながらえてきました。
特にこれといった趣味も持たずひとえに晩酌に喜びを求め人生を謳歌してきた次第です。
　ただし無趣味も体に良くないと目覚め９年前から市の農園を借りて素人ながらの家庭菜園に精を出しています。
　地域への貢献活動としては、７年目の民生児童委員として地域の高齢者の見回りや一人暮らしの方への弁当配達、児童や老人虐待情報収集等々、己も高齢者ながら動き回っています。他に公民館運営協力委員としても各種の行事等に参画しています。

長瀬日出夫
　事務局から送って頂く会報「むせん」会員相互の情報源として毎号楽しみにしており有難うございます｡今は、働いている間、出来なかった趣味と好きな事にのめり込んでおり、電気通信の仕事に、７０歳まで健康で働けた事に感謝しております。
　辞めた直後１～２ヶ月生活リズムが崩れ体調が不良となりましたが、高齢者優待のパソコン教室に１年間毎日通い､お陰でメール､インターネット、ワード、エクセル、パワーポイント、デジカメと何回聞いても怒らない先生のお蔭で知識も広がり体調も戻りました。１１月からは、創造力開発センタパソコン整備士養成講座の申込みも終わり、整備士検定３級を目指し頑張ろうと思っています。
　また最近足腰維持のため、知人の勧めで、近くの公民館で毎週開かれている、社交ダンスサークルに通い夜１０時まで音楽に合わせて大汗を流しています。長いこと腰痛でしたが、お蔭で腰の痛みも治りました。

中溝　金作　（代筆　奥様　共に辰年生まれの７２歳とのこと）

元気でいたつもりでしたが、６年前軽い脳梗塞を患い少しずつ歩行が困難になってきました。若かりし頃に色々旅もし､楽しんで生きて来ましたので、思い出と共にゆっくり余命を全うしたいと思う今日この頃です。

原　正紀

今年で６度目の干支を迎える事になりました。

昨年は､未曽有の天災･人災（原発･政治のメルトダウン）により大変な年でした。

不幸にして被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。
後遺症は、これからも長く続くと考えられます。今年は辰（龍）年、復興元年として，昇龍の如く皆が元気になる様にと祈らずにはいられません。

星野　達也

高齢化社会となり干支の７巡目８４歳も余り珍しく無くなった。しかし今回、干支だよりに投稿出来るのは非常に有難くまた幸せに思い、これまでのprofileについて書きました。文章が長くなりましたがお許し下さい。

昭和２３年６月学校を卒業（無線技術士１級及び無線通信士２級の国家資格を取得)､終戦後の混乱期で就職難の時代でもあったが、学校のお世話で同年８月当時の逓信省岩槻無線受信所に奉職した。入寮し食糧難に苦しみ乍らも、毎日の仕事は先輩のご指導で問題も無く比較的早く習熟する事が出来た。勤続４年を経過し慣れるに従いぬるま湯的な日常の生活に物足りなさを感じ、何とか力いっぱいの仕事をしたいと思うようになった。

其の頃、隣国朝鮮半島では既に北と南で戦争が始まっており、それを契機に日本では警察予備隊が創設される事になった。時の吉田内閣が「警察予備隊は軍隊ではありません」と国会答弁をした為に、警察予備隊の無線通信施設は電波法の適用を受ける事になった。此のため電波法有資格者が必要になり、私はこれに応募し幹部警察官として採用された。

仕事は各地警察予備隊駐屯地の無線通信施設の建設及び試験や調整を行い、無線局の開設の実施並びにその指導でなかなか大変でしたが、無線局開設の基礎創りに貢献した。

しかし、その後結婚をする事になり何時までも軍服を着ているわけにもいかず、また元の電電公社に戻して頂いた。それ以降は、年功序列のおかげもあり年齢相当に職位も昇進した。自動車電話担当総合工事長に在職当時、自動車電話サービスを開始する事になった。私はマイクロ波通信方式の次は自動車電話サービスの時代になると確信し、未だ５０歳で若かったが将来の成長を信じ、自分から希望し新規サービスにchallengeして頑張る事にした。

発足当時、技術者は２０人そこそこでそのうち無線屋は約半分、残りの方は殆んど他部門出身の方で不安と共に心細い限りの船出であった。これに反し初期の頃のお客様は無線に興味をお持ちの方が多くて、素人の説明ではなかなか納得して呉れない。最後は我々無線屋が補足説明を行い理解して帰って貰うことになる。毎日が多忙であり大変であったが、好評で社会の理解も得てお客様の増加が続いた。サービス開始当時は僅か５４加入のお客様で始まったのに、その後関係の皆様方のご努力や携帯電話システムの改善や進歩などもあり、爆発的にふえて現在何千万加入のお客様になったとは全く信じられない位の増加で驚き且つ大変嬉しく思っている。

好評で多忙であったが、当初営業部門や総務部門の職員のなかには心労や過労の為に何人も倒れ、その中には鬼籍に入った方も見受けられた。我々技術部門では小川技術部長や松沢部長代理（他界）など上司の方々のご配慮のおかげもあり、幸い全員無事に職責を全うする事が出来た。しかし、最初の頃寒風吹きすさぶ極寒の環境で、一緒に作業した仲間も今では大半の友は他界し、生存している諸先輩も既に高齢となり昔の思い出を語るすべも無い。省みれば、私は電電公社に３０年、その後自動車電話や携帯電話関係に２０年、70歳迄合計５０年間無線一筋に full time で勤務させて頂き、皆様方に大変お世話になった。

その間､警察予備隊の通信施設の開設や自動車電話サービスの創業などの新規サービスを２箇所タッチする事が出来た。多忙で且つ苦労も多くて大変であったが、反面充実した毎日であり今では感謝し誇りに思っている。今回投稿に際し先人の苦労を忘れ無いために敢えて記述させて頂いた。現在は私も年齢相当の持病を持っているが、これからは健康に注意し更に米寿を目指し暮らして参りますので、どうぞ宜しくお願いします。

山口　登

今回の東日本大震災では、揺れはかなり激しいものでしたが、幸い直接的な被害はなく、ほっとしました。（東京・杉並区）　ただ、直線距離で約1.1km の荻窪八幡神社の石造りの大鳥居が、根元から数個の破片となってくずれ落ちてしまいました。もし、近くに人がいたらと思うと「ゾット」しました。健康の方は７回目の干支を迎えるに当って､歳相当に各部ガタを生じ、血圧ほか各種数値も理想には程遠く、騙しだまし生活している状況です。

ご無沙汰しておりますが、被災地の復興を始め皆様の御健勝をお祈り申上げます。

山下　義智

８０才なった時、自分の希望する字を入れて法名をつけてもらった。しか

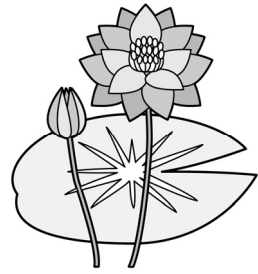
し、本名の方はつけてくれた人（母方の祖父）はもういないので、自分なりに考えてみた。まず、儒教でいう五常（仁、義、礼、智、信）の中に、二つともある。これじゃ 相当品格の高い生き方をしなければならないか。又、聖徳太子の「冠位十二階」の中にもある。徳、仁、礼、信、義、智の順で、これに大小をつけて計１２階級としたもので、最下位に仲良く二つならんでいる。徳や仁は皇室が付けられるので、これらの上位の名が付けられなくて良かった。祖父はここまで考えたのだろうか？私はこの名前に大変満足している。少々肩が凝る感じもあるが―？。なお、琴（箏が正しい）のことを「仁智」とも呼ぶそうで、上面の甲は丸く天をかたどるので「仁」、下面は平らで地をかたどるので「智」、智は地に通じるということだろうか。

渡部　律雄

昭和１５年（紀元 2600 年）生まれ、６回目の辰年となる。この紀元 2600 年は、「奉祝国民歌紀元二千六百年」が国中に響いていた時代らしい。この歌が何時、どのようにして私の頭の中へ入ったか定かでは無いが、「金鵄（きんし）輝く日本の榮（はえ）ある光見に受けて、いまこそ祝へこの朝（あした）紀元は二千六百年、あゝ一億の胸はなる」を覚えています。当時は国威高揚のためとして広められたようです。ただ国民にはこれに対する次のような替え歌が数多く歌われていたようです。「金鵄上がって１５銭、榮ある光は３０銭、それより高い鵬翼は苦くて、辛くて５０銭、あゝ１億のカネがいる」などと、庶民のささやかな抵抗を示したようです。（注：金鵄、光、鵬翼は当時のたばこの銘柄）

６回目の今年、日本は大震災や台風による水害などで未曾有の国難に遭遇し、その復興には膨大なカネが必要です。これの負担が国民の肩に掛かることとなりますが、何とか復興させなければなりません。

我等、平均余命は１４～５年程度らしいが、これらの国難を克服し復興した日本を目にしたいものである。

５　追　　憶

故梶　昭三さんを偲んで　　斉藤　兼雄

各地で“桜が満開”などと、新聞やテレビで華やかに報道されていたその日、「梶昭三さん逝去」との訃報を頂いた。「やっぱり駄目だったのか梶さん」、目頭から冷たいものがこぼれてくるのがわかった。それは私にとってかけがえのない兄貴のような存在だったから。

去る１月、「梶さんが入院している」との情報で野口さん、岩澤さん、私と３人でお見舞いに行ってきたばかり、そのときは脳出血で入院中とはいえ経過はとりあえず安定、私たちの問いかけにも反応してくれたし、会話もどうにか可能だったのでまさかこんなに早く逝くとは考えもしなかった。あのあと自宅近くに転院し回復に向けてリハビリに励んでいるとのことだったけれど、やっぱり無理だったんですね。

私と梶さんとの出会いは、昭和２３年１１月中頃、小石川柳町にあった東京国内無線管理所が最初のこと、進駐軍通信隊への派遣要員募集に応え、採用されて初出勤の時でした。梶さんと私は生まれ年も同じ(梶さんの方が約１ヶ月兄貴分)、採用日も一緒、他に５～６人が同時採用されましたが、私たち二人が一番若かったことからなんとなく“うま”が合い、以来、兄弟のような存在になりました。ところが最初に配属された先は、梶さんは横浜根岸の米軍司令官専用ホットラインの保守現場に、私は横浜本牧の７２通信大隊（野戦用通信機の修理）へと現場初出勤の日から引き離され、それ以来同じ職場で勤務したことは全く無かったのです。長い公社勤務の中で唯一同じ屋根の下で過ごしたのは、梶さんが無線通信部工事部（２２森ビル）在職のころ、私が施設課にお世話になっていた２年間あまりだったでしょうか。しかし、職場は違っていても電話でのやりとりはどこにいても欠かしたことはありませんでした。そして、時々逢っては近況を語り合い、お互い余り強くもない酒を飲み交わしたりしたものです。

私がゴルフを始めたのも梶さんの誘いがきっかけでした。彼はずっと前からゴルフに精を出していてその腕前もかなりのものでしたから、何処か適当なコースはないかとゴルフ会員権を探していました。ある日突然電話があって「会員権買わない？一寸遠いけど安いんだよ」と云ってきました。それは後に彼が会員となった伊豆韮山 GC（当時は伊豆長岡 CC）でした。確かに安かった、昭和４０年代は投機目的の需要が大きく相場を押し上げていた頃です。そんなときで５万円くら

いとのことでした。思わず心が揺れました、でも私にはコースを持つほどの力量はないし、往復４時間余もかけてまで行く情熱は無いし、聞けば名義書換料がなんと１５万円もかかるとのこと、いろいろ検討した結果から購入を断念しました。梶さんはその頃既に現住所に居を構える準備をしていたとのことで、「コースまで５０分くらいで行けるようになるから買うことにしたよ、プレイするときは何時でも声かけて」と言ってくれました。数年後公社を退職するとその言葉を「待ってました」と云わんばかりに、まるで自分のホームコースのような気安さで、何回も何回も日帰り、泊まりがけ、でと通わせて貰いました、いかなる時でも“NO”と云ったことはなく、彼自身も声がかかるのを待っていたかのようにして付き合ってくれました。

ある日、梶さんの誘いで一緒に回ったときのことです。谷越えのショートホール、彼の打球はお世辞にもナイスショットとはいえない低い弾道で、谷越えもあぶないんじゃないかと見えましたが、そこはコースを知り尽くしたメンバー、見事に谷越えするとそのまま転がってグリーンに一直線、そしてカップに吸い込まれてゆきました。ホールインワンです、目の前で見せられて初めてメンバーの実力を実感しました。後日名入りのボールと「岡本太郎デザインの刺繍入りスポーツタオル」を記念品として頂戴しました。私は体調の関係から今はゴルフ絶ちし、クラブなどは処分してしまいましたが、この記念品だけは今でもしっかりと持っています。今となっては梶さんからの唯一の形身分けとなってしまいましたから、これからもずっと大事にしていきたいと思っています。

何時でもどんな集まりの時でも悠然と紫煙を燻らし、「ゴルフとこれが俺の生き甲斐」と片目をつむり、「ゴルフと煙草、止めるならどっち」と聞けば「どっちも止めない」と云って今度は“にやり”、ついに倒れるまでクラブと煙草は手放さなかった梶さん、温厚で緻密、人の面倒見が良かった、そして芯が強かった梶さん。いいことずくめのようだけれど弱点もいろいろあったよ、でもそれは此処では内緒にしておこう。歳に不足はないと思うけど、まだまだ急いで逝くこともなかったはず、六十数年前の同期生もだいぶ欠けてしまって寂しくなってきたから、せめて梶さんにはもう一寸こらえて貰いたかった。

“梶さん　も一度韮山で忘年会をやろうよ”
　謹んでご冥福をお祈りいたします。　　　　　　　　　　　　　　合掌

平田勝治さんを偲んで　　　　　　　　　　　　　　　　　　　近藤　昭次

平田さんの訃報を知ったのは、御長男からの告別式の連絡でした（平成２３年４月１７日箱根興禅院)。昨年８月２６日飯能老人病センターに入院していることを長男から知らされ、すぐに会いに行ったのが最後になってしまいました。しばらく会っていなかったため、誰だか判らなかったようでしたが、そのうち思い出され昔話に花を咲かせて楽しい時間を過ごしました。年が明けお見舞いに行こうと考えていた矢先に奥さんの死を知らされました。今年２月６日セレモ新小岩で告別式が行われ、それから約二ケ月後平田さんも仲の良い夫婦として一緒に旅立ってしまいました。

平田さんに初めてお会いしたのは昭和３１年の冬臼井送信所から三宅無線中継所へ転勤した時でした。その頃の三宅は朝、晩しか電気が送電されず歓迎会はアルコールランプの時代でした。夕方竹芝桟橋を出港し船酔いに悩まされ、夜中に本船から、はしけ船に飛び降りそして坪田港に着いた。それからまっ暗い中をトラックに乗せられ中継所の一室に寝かされ、朝エンジンの音で目が覚めると、まだ船に乗っている様でそれ以来いまだに船は苦手です。

中継所は山の中腹にあり、毎日社宅の買い出しに平田さんが村まで運転してくれ、病気になると医者まで送ってくれました。昭和３２年運転免許の試験があり平田さんの指導のもとに中継所の受験生全員合格し、クランクも車庫入れも試験無しの免許ですが、現在まで無事故で釣りに通っています。中継所の水は雨水をタンクに蓄え、風呂は五右衛門風呂で社宅内順番に入浴していました。中継所１台の車の運行管理、タンクの清掃、水の補給、社宅の管理など事務方だった平田さんは苦労が絶えなかったのではと思います。

三宅島で初めて釣りに行った時釣れたのは、ベラでした。平田さんの子供にと、持って行ったら、こんな物食べられるかと、怒られました。それから色々工夫をし、餌も残った刺身から船虫そしてマガニになっていきました。当時釣り餌等有るわけは無く、自前で調達しなければ釣りも出来ませんでした。船虫は捕るのは難しく地元の人に捕ってもらい、マガニは波が無ければ自分で海に潜って捕りました。釣れる魚は、イズスミ、メジナ、石鯛等黒い魚でしたが、それでも平田さんには、こんな魚は食べられるかと言われ、たまに釣れるカサゴと、春先に釣れるサバ子は喜んでもらえました。たまにはイカを釣って来いと言われましたが、イカ釣りは引きが無いので面白くなく、魚が何も釣れない時以外イカ釣りはやり

ませんでした。平田さんは釣りはやりませんでした。いくら誘っても駄目でした。なにしろ昔堅気で曲がったことは大嫌いで、言い出したら絶対曲げない性格で、昔の事で日にちは忘れましたがご夫婦で東京に出てきた折、ドライブにお誘いしました。一度目は富士五湖巡り途中旅館に泊まろうとしても断られ、当時としては一日 300 キロ初めての長距離運転をしました。二度目は千葉房総半島一周しその時も旅館に泊まろうとしても断られ朝早くから夜遅くまで運転した記憶があります。そのせいか現在よく釣りに出かけますが、朝２時出発下田到着５時半、約１２時間釣りをして帰宅は２３時頃、このような強行軍の釣りが出来るのも平田さんのお蔭かも知れません。三宅島は 1983 年と、2000 年の２回の噴火があり１回目の時は割合早く収まりましたが、２回目の噴火は未だに収まらず、飛行機も飛ばない状態です。平田さんは、船が大嫌いでよほどの事が無ければ船に乗ることは無かったそうですが、もう船に乗ることは無くなったので箱根で安らかに永眠して下さい。尚３人の御子さん達は三宅島には住まないそうで、御墓は箱根興禅院、元箱根の舟着き場の前に有り箱根に行った時は立ち寄るつもりです。

高岡泰資さんを偲んで

北上　利雄

私と高岡さんとの出会いは、東京電信調整所の技術課技術係、入社２年目、東北の片田舎から「花の都」に就職し希望に燃えやる気満々の頃でした。

当時、技術課技術係は移動無線機（TZ—403 等）による災害復旧・災害復旧演習・イベント等での臨時回線作成が主な業務でした。

当時まだ群馬には、有人の無線中継所がなかったため、東京電信調整所が群馬エリアの VHF 可搬無線機の特別保守局として、尾瀬と沼田迦葉山の夏山電話やケーブル救済のための伝搬調査が一年を通じてあり、これらの業務を通して高岡さんから、事前準備（地図・プロフイール等)、現地での無線機やアンテナの設営等きめ細かいご指導を頂きました。また、可搬無線機は色々の条件の回線に適用出来るように設計されており、現場での作業に当る者には神経を使う部分でしたが、高岡さんはこれを分厚い「取扱説明書」から、解かり易いマニュアルを数日で自作（手書き）し、係員に配付し、回線設営･試験が容易に出来るようにされ、係員から感謝されておりました。

昭和４３年５月１６日発生の十勝沖地震では、災害の出動命令があり TZ-403 と機材一式を積んで国道４号線を、夜を徹して一路東北（八戸市）の被災地へ。隊長は小林茂さん（故人)、副隊長は高岡さん、隊員は平塚義一さん（故人）たち若手でした。仙台の東北電気通信局からの手配で各県警のパトカーが先導してくれるのですが、無線機を満載した美人バスタイプの旧式無線車（ボンネットタイ

プ）は、ブレーキだけは抜群なのですが、アクセルをいくら踏み込んでも坂道は、付いて行けませんでした。また、被災地近くは、道路の陥没等地震による被害があちこちにありましたが無事到着。早速、高岡さんは三沢被災地のリーダーとして、八戸間との回線設営に従事し開通させました。

元来、生真面目な紳士でしたので、趣味といえば、電信調整所時代は写真でした。その後、ボーリングが流行るとマイボールにマイシューズで奥様と仲良く楽しまれた結果、ボーリングはプロ級の腕前、中継所の大会では若手を退けダントツの点数で優勝したことを記憶しております。アルコールは強くありませんでしたが、ビリーヤード（四つ玉）の後など、神田のガード下で焼き鳥を食べながらの一杯にも気さくに付き合って頂きました。

地域でもボーリングはもちろん、ダンス、写真愛好会、イベント、ボランテア活動等皆さんの先頭に立ち活躍されたと聞いています。

月日が経過し係員もそれぞれ転勤等で散り散りになりましたが、小林茂（故人）の発案で、電信調整所技術課当時の移動無線工事隊の仲間を中心とした、サンサン会で年に一度集まり、泊り込みで（最近は日帰り）一杯飲みながら当時を懐かしみ近況を語りあい旧交を温めておりましたが、今年の６月の会合には体調不良とのことで、心配していた矢先の訃報でした。

几帳面な高岡さんですので今頃は、天国で小林移動無線工事隊長、神山移動無線工事副隊長に挨拶に赴き、スクラムを組んで「天は怒り地は叫ぶとも、備えあれば憂いなし、保全の使命担いゆく、日夜たゆまぬ若き眉、あゝわれらわれら移動無線工事隊」・・・と歌っていることでしょう。

謹んで心から、ご冥福をお祈りいたします。　合掌

＜参考＞
移動無線工事隊の歌　作詞作曲　庭野 国太郎さん（電信調整ＯＢ・故人）

① 天は怒り地は叫ぶとも
備えがあれば憂いなし
保全の使命担いゆく
日夜たゆまぬ若き眉
あゝわれらわれら移動無線工事隊

② 泥にまみれ身は疼くとも
通信確保　ただ一途
電波に託す　声枯れて
握る受話器ににじむ汗
あゝわれらわれら移動無線工事隊

③ 時は来たりいざ出動の
指令と共に競い起つ
被災地めざす無線車に
安否気遣う保安帽
あゝわれらわれら移動無線工事隊

④ 苦労実り風さわやかな
蒼空分けるアンテナを
見上げる笑顔よろこびの
胸にあらたな斗志わく
あゝわれらわれら移動無線工事隊

６　随　　想

○　無線工事局勤務の頃

まえがき

この記事は会報「むせん」６７号で会員による著書として紹介しました「決断の風景」の中から著者の依頼によりその一部を掲載したものです。このため、記事の冒頭と終の部分でやや不自然な感じとなりますことをあらかじめご承知おき下さい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（会報編集担当記）

無線工事局勤務　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　井上　五朗

・課長ポスト就任で張り切る

電波局の機構改革からしばらくして、今度は、地方の逓信局に新しく電波部ができた。私は、この機を期してかねてからの希望（電波の監理より無線施設の建設保守)、つまりは工務局本来の仕事に就くことになった。東京無線工事局（間もなく無線管理所と名称変更）超短波課長である。工事局は文京区柳町にあり、同課は新設の課で、終戦前より試行され、やっと実用に供されたばかりの超短波の中継による、多重電話回線の保守建設が同課の主な務めで、本省を始め多くの方面から特別注目をあびていた。私としては、初めての課長ポストであり、若かっただけ新進気鋭の仕事ぶりを発揮しようと務めた。

当時、超短波が実用回線として使われていたのは、東京―大阪、東京―仙台、東京―八丈島の３ルートだけであった。大阪回線は、箱根の双子山が最初の無線中継所だが、ここから八丈島までは電波伝搬上無理なので、富士山の頂上に設けた中継所を用いて回線を維持。仙台回線は、那須高原が最初の中継局として採用されていた。富士山の施設は終戦直前、軍の緊急要請で多くの犠牲を払っての突貫工事で完成、東京空襲対策に何とか間に合ったという。当時、中継所には２０名ほどの職員が駐在。僅か６通話路の回線の保守にこれだけ必要。その何百倍もの通話を運ぶ現代の中継所は、全て無人。この間における機器の進歩は本当にすごいものだ。だが、それにしても当時の回線保守は大変だった。ちょっと保守員が眼を離すと、どこかが異常を示す。長い回線中に一点でも障害を起こすと、通話は止まる。止まらないでも雑音か漏話が発生する。だから業務に従事する交換嬢からの苦情が絶えない。無線の回線を避けて、ともすると従来の有線を使いたがる。これでは私達無線屋の立場がない。何とか新しい無線回線に関心を向けるようにと、彼女達の集まりにまで顔を出して頼み込む。こんなことを何回やったことか。それに１中継所だけでも大勢部下がいる。しかも大方は山の中、生活に

不便が多い。本課を合わせると合計１５０名ぐらいの課員の長。社会情勢は戦後２年、最も悲惨な状況時の話である。現場にあってのこの我が課長時代は３年程であったが、この時代でなければ経験出来ないような出来事にも、いやおうなしに向かわなくてはならなかった。そのうちでも現在、忘れられない思い出の一つについて、次に話を進めることにする。

ある日、私は本省に呼ばれ、以下のような指令を受けた。

「米軍から、再び新しい命令が逓信省に下された。東京―大阪間に米軍専用の電話回線をＶＨＦ中継で新設すること。中継局は現在、逓信省で使用中のものをそのまま使用するが、送受信機、空中線、発電装置などは全て米軍のものを使用する。工期は一カ月。このため米軍は、特別の工事部隊を編成するが、日本側として現場での米軍との交渉役を１人参加させること、とある。その役を君にした。この特殊部隊は、明後日朝、横浜の基地を出発する。これに最初から同行するように、すぐ、その準備をしてもらいたい。まず一カ月は彼等と行動を共にする必要があるから、万時うまくやるように」

全くひどい命令である。第一、私には英語会話の自信がない。特別通訳がつくわけでもなさそうだ。それに全く初めてのことで、どこまで責任を負うのか、それも不安。誰か他に適任者が本省にはいるだろうと反論したが、既に君の名を米軍に伝えてあるという。そこで、私も腹を決めた。俺も男だ。何とかなるだろう。私は、直ちにその役割を引き受けた。

・米軍統制だからできたこと

それから約４０日間、私は一人、多数の米国人達と寝食を共にして活動した。その間、困難も多かったが、ともかく、何とか所期の目的を達することが出来た。それは、私が社会に出てちょうど５年目のことであったが、この体験から私は、大きな自信を得たような気がする。私が特に感銘したのは、同じ目的の仕事をするのに、日米でそのやり方があまりに違うことだ。これでは戦争に負けるのは当然といえよう。彼らのやることは、実に合理的で確実性が高い。部隊の構成は２人の技師と、軍人は少尉１人と１０人くらいの兵隊。それに列車付きの日本人ボーイと私だけ。これに当時の二等寝台車と食堂車、さらに貨車が数両。このうち１両が無蓋車で、ジープと半トラックが載せられ、他の貨車には、各中継所に必要な器具が整理されて格納されている。仕事に入る前日の夕、国鉄のＲＴＯに明朝何時までに、何駅の構内にこの編成車両群を着くようにと命ずる、次の朝、食堂車で全員朝食、２台の車に、ボーイを除く全員とその日必要な機具を乗せて出発。現地では技師がすべての仕事の手配を行い、少尉が兵隊を指導して実行する。夕方５時には、きちんと帰路につく。夕食後は全員自由、食堂で時間を過ごすか、

寝台車の自分のベッドで休む。一つの中継所の工事は２、３日で終わる。
　もっとも、現場は既にわが方の通信施設として運用中のものであるが、それにしても事の運びは速い。空中線にしても、太い木柱を何本も立てての我方の施設に対し、彼等の装置は、細い１本の柱をビニール線で支える程度。これで安定した回線が繋がるのだから驚く。その中心をなす送受信機だが、これがまた日本のＶＨＦ機器と全然違う。技術基準として同じＶＨＦでもＦＭ変調、３通話路方式だが、非常に小型で安定度が高い。調整方式についても行き届き、立派で詳細なマニュアルがある。素人でもスイッチを入れれば、すぐに相手に繋がるといった具合い。この機器は通称、〝アントラック〟と呼ばれ、ジープと共に大戦中、準武器として米軍の作戦遂行に大変役立ったというが、確かに私は頷けた。日曜日は休日、全員自由。私も２回ほど土曜日の夜家に帰った。その折、ボーイが特別に美味な、当時一般にはみられない土産を作ってくれた。家族が喜んだことは、忘れられない。
　さて、以上のことは、終戦後間もない米軍統制下の特別な時代であればこそ出来たのであろうが、そうであればこそ一層、この時、５０年昔に経験した数々の光景が、今なお強く私の脳裏に映ずるのである。
　最初の頃は、会話の不完全などから、私と技師や少尉との相互理解は難しかった。それでも毎日、寝食を共にして一緒に仕事をしているうちに、気心が互いに通じ合うようになってきた。
　そんな頃のある休日、その日、部隊は京都駅構内に留っていたのだが、ちょうど私の誕生日であった。その夜、技師の一人の提案で、私のために食堂車の中で全員が誕生祝賀パーティーを開いてくれた。大変な盛況であった。ボーイが特別の美味しいご馳走に腕を振るった。私は、前もってその日一日和英辞典と取り組んで、お礼の文章の作成に努め、出来る限りの名英作文に作り上げた。宴の終わる頃、突然立ち上がり、真面目な顔で、私はこれを堂々と読み始めた。酒が入ると奇妙に英語まで旨く出る。これには技師や少尉よりも、兵隊達が一斉に驚きの表情を示し始めた。常日頃、私は彼等とはあまり話しをせず、超然としていたので、私に対する彼等の評価は非常に低かった。だからこそ、この私の他に臆することのない立派なスピーチに接し、特別意外感に打たれたようだ。なんせ私の英語は、彼等が仲間同士で日常使う Gi-English ではなく、将に正当な King-English である。翌日から、私を見る彼等の目が違ってきた。その一人は、私をその後、ガバナーと呼ぶようになった。

トルコ遺跡巡り

板川　凡夫

海外旅行なんて珍しい時代ではなく、今更旅行記事なんて面白くないかも知れませんが、私はそれほど旅行してはおりませんで、想い出を残す意味で書いてみました。

行ったのは２０１０年の夏です。後期高齢者となるのを機会に海外旅行に行くことにしました。トルコなんて何も知らなかったのですが、旅行案内書等読んでみると史跡などが沢山あると知り決めた次第です。ちなみにトルコには世界遺産が９カ所あります。

海外旅行は不慣れなこともあり、旅行会社のツアー参加です。日程は８日間、実質６日間でした。

トルコは、西はギリシャ、東はイランに接するヨーロッパとアジアをつなぐ国であり、国土の面積は日本の約２倍、人口は７３００万人、民族としてはトルコ人８０％そのほかギリシャ人・アラブ人などの少数民族からなる国だそうです。宗教はイスラム教（スンニ派）が９９％ですが、政教分離が進み宗教の自由が認められており、また比較的自由にお酒も飲むし、女性の衣装も厳しくなく、旅行中ブルカ姿を見たのは数人だけでした。

トルコは親日的な国の一つと言われている。トルコ人・日本人の祖先は中央アジアの同じ民族だという意識を持つ人もあるとか、現在の共和国を建設したアタチュルクが近代化を進めるため、日本の明治維新に学べとスローガンを掲げたなどがあって、日本人に対して親近感が強いそうです。

トルコ最大の都市イスタンブールへの到着は夜、翌日からの観光開始です。
初日はトロイ遺跡。青銅器文明の初期にあたる紀元前３０００年頃に集落が出来たそうで、エーゲ海交易の中心地として繁栄と没落を繰り返し、６世紀初期の地震で埋没したとのこと。ドイツ人シュリーマンがホメロスの叙事詩を基に発掘したことで有名である。かなり傷んだ遺跡であり、石積みの基礎が多く見られる程度であるが、アレキサンダー大王が奉納したと言われるアテナ神殿跡やローマ時代の野外劇場跡など繁栄の跡がしのばれた。

トロイと言えば「トロイの木馬」となるが、現在のものは約４０年前に複製されたものだそ

うで、高さ１０メートルを超す二層づくりの巨大な木馬でした。
新しすぎて興味薄の感じで一寸がっかり。

２日目はエフェス遺跡です。

小アジア最大の都市遺跡だそうで、周囲が城壁に囲まれた広大な都市だったらしい。見物した場所だけでも歩くのは１.５キロはありました。
紀元前１１世紀イオニア人が海辺に住み始めたが、港が土砂に埋まり紀元前３世紀に現在の地に遷都された歴史があるそうです。

紀元前２世紀にはローマ帝国の属領として繁栄したそうである。見るのが忙しくて何時頃廃墟となったかは聞き漏らした。

繊細な装飾が施されたアーチ、複数の神殿・複数の像・浴場・野外劇場・アゴラ（政治や文化、宗教等の重要行事が執り行われた集会場)・図書館などさまざまな遺跡が見られる。キリストの死後に使徒ヨハネが住んだと言われるアルテミス神殿は、世界の７不思議の一つだそうである。聖母マリアはヨハネに伴われこの地に住んだそうで、その住居跡も見られた。

日本の弥生時代に豊かな都市生活を送っていたことに感心させられると共にマリアの終の棲家がここだったことに驚きました。

３日目はパムッカレとヒエラポリス観光です。

パムッカレは、数千年間にわたって流れ続けた鉱泉が造りだした白い石灰棚の湖です。段々畑のように広がっており、青・白の彩り豊かな湖だ。
中国黄龍にも同様な湖があり、こちらは小さいながら湖の数が多く色も綺麗だったが、パムッカレは規模が大きく壮大な風景がひろがって格別の感がある。

自然の凄さを痛感させてくれた。温泉が湧いており足湯を楽しむ。
　この石灰棚を望む丘の上にヒエラポリス遺跡がある。
紀元前２世紀頃に造られた古代都市の遺跡です。神殿・劇場・市場・浴場跡等があり、規模は小さいが昨日のエフェス遺跡と同様な気分を味わう。
１４世紀の大震災で壊滅的な打撃をうけとのこと。
　今夜の宿泊はコンヤです。
　セルジュクトルコの首都が置かれた街で、イスラム神秘主義教団メブラーナ教の発祥の地とのこと。神と一体となるためにくるくる旋回しながら踊る珍しい踊りを一寸見せてもらった。仏教では座禅が思い浮かぶが、こんな宗教もあるのかとびっくりした次第です。
　４日目、いよいよカッパドキアです。
　キノコ状の奇岩などの写真を見られた人も多いと思います。
数億年前に起きたエンジェルス火山の噴火で、凝灰岩と溶岩層が何層にも積み重なったところに雨・風が浸食して、不思議な形の岩岩が生まれたそうである。

　広大な地形であり、全部見て回るには数日を要するだろう。人々が住んでいた岩窟跡があちこちに見られ、最近までは人が住んでいたらしい。
　見物したのはカイマルク地下都市・ギョレメの谷などのみ。
地下都市には８階の洞窟があり、一万人以上の人が生活できたらしい。
　イスラム教徒からの迫害を逃れるため、キリスト教徒が身を隠したそうである。
我々には想像も出来ない宗教の厳しさを痛感させる話である。
　ここでは気球を利用した空からの観光も出来るとのこと、翌朝に見たカラフルな数多くの気球を見て少し残念な気分でした。
　５日目、近くの空港からイスタンプールに戻り、市内観光をする。
　見どころは多いそうですが、時間的制約から見学したのは旧市街と言われる地域にあるブルーモスクとトプカプ宮殿のみでした。
　ブルーモスクはトルコ帝国時代の１６世紀に造られた寺院。回廊のある中庭とドーム式の礼拝場のあるオスマン方式の壮大なモスクです。
　内部は青い花柄のタイルがビッシリと飾られており、ブルーモスクと名付けら

れたとのことです。建物の外側には尖塔と呼ばれる棒状のものが６本あるが、６本あるのはここだけだそうで通常は４本だそうです。

トプカプ宮殿は、城壁に囲まれた７０万平米にも及ぶ広大な宮殿で、スルタンが生活・政務をおこなったところ。１９世紀半ばに新市街のドルマバフチェに移転され、現在は博物館として公開されている。

当時のさまざまな生活用品などが多く展示されていたが、スルタン収集品である宝物館のトプカプ短刀が見事でした。

此処では入場後自由見学でしたが、集合場所に指定された場所を間違え一苦労しました。宮殿内には幾つもの門があり、集合場所である幸福の門を通り過ぎて表敬の門まで戻ってしまったのです。ここは入場入口であり、出てしまってから気づいたのですが、言葉も通ぜず再入場するのに一苦労した次第です。

夜はトルコ芸術の華の一つと言えるベリーダンスを楽しむ。

６日目、今日はエーゲ海と黒海を結ぶボスフォラス海峡クルーズです。

びっくりしたのが市内交通の渋滞の酷さです。１ｋ行くのに３０分以上もかかる処もありました。トルコにもこんなことがあるのかと驚かされた次第。
幸いクルーズ船はチャーターのため乗り遅れることもなく済みました。

クルーズ終了後はバザール見物。１５世紀中頃から始まったのだそうですが、５０００近い店舗や２０００以上の工房があるとのこと。

バザールと言えば主として日用品売り場を想像しますが、ここでは金やトルコ石の宝飾品・絨毯・陶器等の伝統工芸品のほか、革製品や銀・銅製品等多彩なものが販売されていました。観光客の土産品売り場と言った感じです。とにかく規模の大きさには驚きました。その後夕方には空港に向かい帰国した次第です。

トルコの歴史では、紀元前６０００年頃には人が住み始め、紀元前１８００年頃にヒッタイト人による最初の王国が生まれる。以後、ヨーロッパ系のペルシャ・ギリシャ・ローマ帝国・ビザンチン帝国と変わり、トルコ民族が進出したのは１１世紀。最初はセルジュクトルコがコンヤに首都を置いて勢力をのばしたが、１４世紀にはオスマントルコが次第に勢力を増し、１４５３年にビザンチン帝国が滅亡した。アジア・ヨーロッパ・北アフリカにまたがるオスマン帝国の誕生である。

第一次世界大戦でドイツ側に参戦するも敗退。国土分割の危機を迎えたが、ア

タチュルクが救国戦争を指揮し、１９２３年トルコ共和国を樹立し現在に至る。
　大陸の一国として、日本では考えられないような民族間の争いの中で歴史を刻んで来ている。
　ヨーロッパ・中近東はキリスト教・イスラム教といった一神教地域であり、宗教的な争いも厳しいようである。　今回の旅行ではこれらのことを知らされる旅行でした。
　日本では、東日本大震災で大変な被害が出ているが、トルコも地震地域であることから繁栄の都市が壊滅して史跡となったところも多く、共通することもあるんだなと感じた次第です。
　ノアの箱舟伝説の舞台であるアララット山があることや、イチジクの原産地であること、サクランボもそうであるらしいなどを知ることが出来、旅行っていろんなことが判る機会でもあるんですね。

初めての富士山登山　　　　　　　　　　　　　　　　　　秋山　道夫

　私にとって富士山は日本一高い山ですから下からながめて感激するものであって、登ろうなんて事は今まで考えた事もありませんでしたが、今回、機会があって「生まれて初めての富士登山」に挑戦してまいりました。
　電友会に入って、千葉・茨城ブロックのハイキングに年２回参加してきましたが、この中で内田さんが富士山に毎年何回か登山されているとのお話しを聞き、いくらか富士山を身近に感じはじめた時、窪田さんから富士山登山に挑戦しないかとのお誘いをいただき、一生に１回は経験したいという気持ちが大変強くなり参加する事を決めました。

　今回は旅行会社の「雲海より出づる感動の御来光日本一の山へ！富士登山」限定２５名８月２８日～２９日（1泊２日）のツアーに参加しました。

千葉のハイキングサークルから参加したのは増田さん、窪田さん、藤平さん、藤平さんのお友達の野口さん、秋山の計５名でした。

登山らしきものは今まで経験したことが無かったのでインターネットで事前にいろいろと調べまくりました。はたして体力的に大丈夫か心配で事前トレーニングも家から東金駅まで約３.５Ｋｍを２回ほど早徒歩する程度は行いました。

初日の８月２８日は午前６：３０分に千葉のＮＴＴ富士見ビル前に集合、いきのいい山ガールから中年ご夫婦、年金生活者？までさまざまな年齢層の参加者が迎えのバスに乗車し、途中２ヶ所でさらに参加者を拾い一路富士山五合目に向かいました。

富士山五合目は富士スバルラインの終点で既に標高は２３０５ｍあります。

１１時３０分頃に到着しましたが登山開始まで約１時間あり、この間に食事をとりました。

インターネットで見ると、この１時間が大切であり身体を高地に慣らす目的がある様です。１２時３０分に案内人の指導でストレッチのあと参加者全員による登頂完遂の雄たけび？をあげてから登頂を開始しました。

開始してからまもなく小雨が降り出し、山の厳しさをすぐさま経験しながら持参の雨具に着替えました。六合目までは下りもあり、道も広く心配は吹き飛びましたが、登山を終えて下山する人達とすれ違い、様子を見ると中には夢遊病者みたいになっている人、歩けず馬に乗って降りてくる人など大変そうな人もおりました。その他外国人が多いのには驚きましたが、皆さん軽装備で靴などもスニーカーの人もおり、これにもびっくりしました。

山道はいよいよ急斜面に入り、岩盤地帯を通過します。ツアーなので先頭には山小屋の案内人、最後尾にはツアーディレクターがついてくれ、休憩のタイミング及び高山病対策などの指導をいただき、大変順調に登山する事が出来ました。

途中で高山病のため動けなくなった人も何人も見てきましたが、心配していた私自身これといった事も無く目的の八合目山小屋「太子館」に１６時３０分頃に到着しました。太子館は昔聖徳太子が馬で富士山に登ったおり休

憩した場所に由来して名前がついた様です。

御来光を見る為に太子館出発は午前０時と決まり、早めの食事（カレーライスとおかず）をした後、寝袋に入り仮眠しました。山小屋のスペースは一人一人寝返りも出来ない状態でしたが昔に比べるとかなり改善されているとの事でした。

ここで大変有効だったのが耳栓で、部屋はかなりの騒音があり同行の皆さんは眠れなかったようでしたが、私は耳栓のおかげで十分仮眠が取れました。

午前０時太子館をあとに、約４時間をかけて山頂を目指しました。暗闇の中頼るはヘッドライトの光のみ山道は大渋滞で下を見るとヘッドライトの帯がホタルの様に連なって見えました。空を見るとオリオン座がこんなに大きく見えるのかと思う程綺麗に輝いて見えました。

後で考えるとこの大渋滞があったため、高山病にもならず、少し進んでは休みの連続が運動量の低下に効果を見せてくれたものと感じました。

山頂についたのは４時３０分位で、御来光５時１２分に十分間に合う事が出来ました。山頂は人また人で皆、御来光のシャッターチャンスをねらってごった返している状況でした。山頂には浅間大社があり古希以上の人にはお神酒と記念品の扇が出るとの事で増田さん、窪田さんがありがたくいただいておりました。

５時を過ぎると空は朝焼け色ですこしづつ明るくなり、御来光前のなんとも言えない凄然さと神秘さを実感しました。午前５時１２分雲と雲の間から顔をのぞかせた御来光は１０年以上やっているツアーディレクターも驚くほどのすばらしい光景を見せてくれ、これぞ富士山の醍醐味だとしばし手を合わせて拝みました。

御来光の感動に浸るとともにお鉢を覗くともう下山の時間です。登山道と下山道は道が違い４時間をかけて五合目まで降りていきます。下山道は非常に傾斜が急で道は火山の軽石に覆われており良く滑ります。ガイドさんにボーゲン歩行を教えてもらい、ジグザグの繰り返しを行

うようにしたらスムーズに下りることができました。下りながら反対側の登山道を見ると、昨日は良くあんな急勾配を登ることができたんだとただ驚くばかりでした。

五合目が近づくとさすがに足はガクガク、メロメロの状況で昨日すれ違って降りてきた人達の疲れきった気持ちが良くわかりました。五合目に着いたのが午前９時３０分予定どおり、一人の脱落者も無く完遂する事が出来ました。この時の満足感は大変なもので「やれば出来るんだ」と心の中で叫びたい程でした。

ツアーはこの後、河口湖湖畔の「日帰り温泉天水」に立ち寄り、登山の汗を十分ぬぐうとともに、参加者全員で完遂を祝ってビールで乾杯しました。この時のビールのうまさは言うまでもなく最高の味でした。

今回の「初めての富士登山」を振り返ってみると、やはり人生は全て挑戦、挑戦無くして得られる物は無いと実感しました。今後もチャンスがあればいろいろな事に挑戦したみたいと思います。

耐震と我が家のリフォーム　千野　里

郷里の甲府に帰って早くも５年が過ぎました。

現役時代を過ごした相模原市鵜野森から甲府の生家までは、車で渋滞を避けると２時間足らずのところにあり、平日は訪問介護やデーサービスを利用して生活している両親の面倒を見るため、休日には妻と良く早起きして通った家でした。

私が昭和４３年に上京するまで暮らしたこの家の記憶は、祖父が戦前に建てた大黒柱に差し鴨居の母屋と、明治の蔵や納屋がある古民家建築の家でした。その古めかしい農家の家屋を勤め人だった父は、昭和４７年に母屋だけを残して近代的な鉄筋コンクリートで増改築（延床面積：１６８㎡・５１坪）して今の外観に整えました。引越しをせず戸惑うこともなく暮らし始めたこの家も、四季を通して生活してみると大変でした。不便なら我慢もできますが、水洗トイレの浄化槽に石油ボイラーの故障からエアコンのガス漏れと設備のトラブルが後を絶ちません。それに押入れの雨漏りなど次々と問題が起きてこれは何とかしなくてはなりません。

しかし、それよりもっと大きな問題は、東海沖地震特別強化地域に暮らす必須課題の地震対策です。「今後３０年以内の発生確立は８７％」とのこと、この大地震の発生で甲府市西部に位置する我家の辺りは、「震度６弱～６強」の立ってはいられない大きな揺れが想定されます。それでも当時の耐震設計が震度７の洋館は、冷蔵庫や家具など転倒防止対策で済みそうですが、木造家屋の倒壊は大丈夫かと心配になりました。いくら骨組みが確りしていても大切な耐力壁を一部壊して窓を開けたり、棟瓦が波打つ重い屋根が耐震性を大きく損ねていることは明らかです。早く検査をしなければと思いつつ２年が過ぎてやっと耐震診断を受けることになりました。その結果は、地盤・地形には問題なく、指摘事項は基礎と家屋の土台が固定されていない。また、南面に壁がなく耐力壁の配置が悪い。さらには、２階の屋根は４トン近くの重い瓦と泥で葺いてあるため、強く長い横揺れで《倒壊する可能性が高い》と心配していた報告書が届きました。

（参考：プロジェクト「TOUKAI－０」ホームページ・耐震ナビ検索）

そこで先ず、耐震補強について当時増改築を手がけた建設会社を訪ねたところ倒産して今はなく、信頼のおける会社の選択から始めることにしました。今となっては設計、施工図面も見つからずに同業者からは手探りで面倒な事になりそうだ。また、兄弟からもいっそ新築をと勧められて真剣に建替えまで考えました。

しかし、長男で生家を離れ長らく社宅にマンション住まいだった私は、祖父が建てた家に郷愁と愛着があり、そう簡単には壊せないと思うようになりました。

それから自分の考え方と一致するある大手の「新しい建替えシステム」と建築士に出会いました。この事前調査で柱や梁は百年あたりから強度を増してくることも分かり、会社の調査結果と難しい家族の要望にも納得いく回答が決め手となって、迷うことなくこの「人」と「会社」に改築の全てを託すことにしました。

その耐震対策は、基礎の石を鉄筋コンリートで打設して土台をボルトで固定する。壁は一旦取り除いて間取に合わせ耐力壁を再配置する。揺れを押さえるために筋交や金物などで補強する。屋根は軽量な金属で葺き換えることで、古民家の

弱点とこの前に改造を加えた建物の安全を再構築する内容でした。
　この先祖との絆を大切にした大掛かりな改築工事は、新しいライフスタイルと身体に優しく合わせ、床の間の座敷以外は全て洋間に替えました。また、箪笥も加工してクローゼットに納めるなど、関係者のおかげで全て壊して廃棄せず、念願の絆と快適な空間をも受け継ぐことができました。このことは、私なりには、ほんの少しだけれども環境にやさしい家作りができたと思っております。
　次に節電エコの取り組みですが、太陽光発電と一般化してきたオール電化システムを検討しました。先ず太陽光発電は、発電パネルの搭載を始め、全ての設置条件をクリアーしましたが、これからさらに改善が見込まれそうなために導入を見送りました。オール電化は石油とプロパンガスに見切りをつけ、使い易く掃除も簡単、しかも、朝晩、夜間の割安電力使用でお徳と好評の東電「電化上手契約」を採用しました。これで夏場であっても１ヶ月１万円を超えた灯油代と平均４千円のプロパンガス代は当然ながら０円です。しかも、給油やガスボンベの取り替えの煩わしさも解消して妻も大変喜んでいます。この電化システムの備えにしては少々心許ないのですが、停電時の暖房と煮焚きに便利な対流型石油ストーブは残すことにしました。

　一方で家屋の冷暖房は、いま流行のエコ断熱２重サッシに取り替え、床下や内壁には断熱材を多用して、外壁はサイディング張りを施しました。これでエアコンなどの冷暖房効果を上げ、新築並みの省エネ性能を備えた家に代わりました。また、この際にと節電効果が大きい１０年は過ぎた冷蔵庫を始め、ブラウン管テレビや、古い洗濯機に照明器具などを思い切って節電タイプに更改しました。
　その甲斐あってオール電化が功を奏して光・熱・水料は気掛りだった電気代がほぼ横ばいで思ったよりも

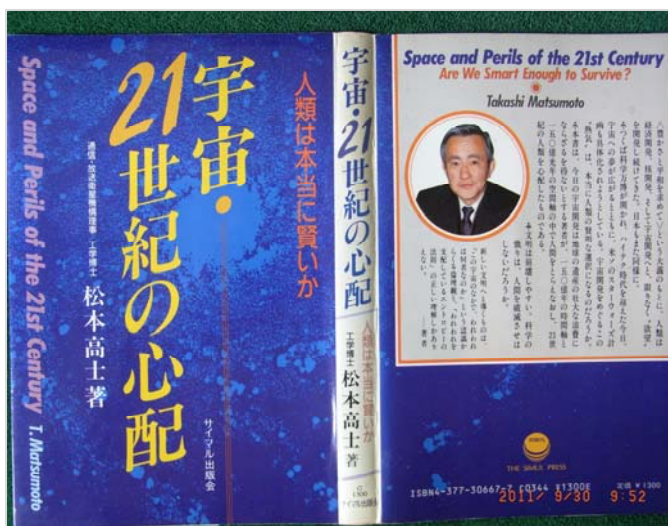
上がらず、水道代は水洗トイレの浄化槽を廃止したことによって、倍近くにもなりました。それでも当初の見込みを上回り、トータル削減額は年間１５万円を超えました。

もちろんこの工事は、環境エコや節電を目的にした訳ではありません。それは、単なる耐震対策と不具合解消の設備とか家電機器の更改だけに止まらず、新たな命を吹き込んだ我家のリフォームは､何かと面倒なところもありました｡しかし、

それでも度重なる話し合いの中から、工事関係者を交えた打ち合わせが実を結び、家族の希望をそれぞれ叶えたことで充実感と思いやりが深まり、尚且つコスト削減が実現したしだいです。

これからは、太陽光発電の導入を検討する一方、野菜作りやガーデニングで鍛えた腕を発揮して緑のカーテンを張って節電する他、日頃からこまめに無駄な照明やテレビを消してエアコンの適切な温度設定など、さらに節電に努めていきたいと思います。

住宅用太陽光発電について　　　　　　　　　　　林　憲男

私が臨時極超短波部（マイクロ無線部）に転勤した昭和３３年５月の係長は松本高士さんでした。松本第一設計係長は「ＦＭによるカラーテレビジョン信号の伝送に関する研究」で工学博士､その後フランス留学、ジュネーブ事務所長、マイクロ無線部長、東海通信局長、経営調査室長等々要職を経て確か１９７９年に通信・放送衛星機構理事に転進されました。しかし、何時も大きなご指導を頂いて来ました。その松本さんが１９８５年（昭和６０年）に「宇宙・２１世紀の心配」

―人類は本当に賢いか―という本をサイマル出版会から出版されました。第一設計当時の連中が渋谷の寮で出版のお祝いをして著書を謹呈して頂きました。

著書の中で、今話題の原子力に関する記述の一例を挙げます。

「原子力発電」も、廃物処理に疑問を残したまま、「安い」ということだけで目先の利益を追うと、子孫がとんでもないツケを払わされます。「子孫にツケを払わせても、なお目先の快楽が欲しい」というのは、娘を身売りしても、なお目先の道楽がやめられぬ」というのと同じです。・・どうやら、「エネルギー開発」は人類を救うものではなさそうです。本質は、「欲望をつつしまねばならぬ」ということです。「環境を壊したら、生物は死滅する」というのが、「宇宙のおきて」だったのです。・・人類は「トイレ無きマンション」に住み続けられるか（以上Ｐ１４３から原文引用）、などなど２１世紀の人類を心配された貴重なご意見でした。これを約３０年前にお書きになられていたのです。　私は、そうゆう意識を根底に叩き込まれていたので、東日本大震災発生の前に、太陽光発電の営業マンが家に飛び込みで来られた時、その話に直ぐ乗った次第です。

太陽光発電導入動機の前置きが長くなりましたが、福島第一原発事故関連のニュースを聞くたびに、今は亡き松本さんの洞察力に改めて感銘いたします。

太陽光発電の工事自体は、丸一日で終わり、２０１０.７.１６ 東京電力と系統連系して林発電所として承認・完成しました。太陽電池モジュールは、カナディアン・ソーラー製　タイプ単結晶　公称最大出力１９０Ｗ×１８枚＝３.４２ＫＷです。一ヶ月最大出力予定は、１９０Ｗ×１８枚×６Ｈ×２０日×９４％（変換効率）×９５％（屋根）＝３６６ＫＷＨと推測されました。

太陽光発電システムには推進策として補助金制度があり、設置した平成２２年度では、日本国から３.４２ＫＷ×７万円＝約２４万円。東京都から３.４２ＫＷ×１０万円＝約３４万円。合計約５８万円の補助金を受ける事ができました。

昼間発電時の余剰電力は東電側に逆流し、売電メーター（新設）に積算され、毎月の検針時に売電のＫＷＨ数と売電金額が知らされる仕組みです。

２０１１年の４月と５月には発電量が良かったのか売電料金額が使用電力料金額

を上回り（５５８円と１２４円）実質収入となりました。４月分の記録です。

毎度ご利用いただきありがとうございます
電気ご使用量のお知らせ
林 憲男 様
ご使用場所 中野区中央５丁目４－８
23年 4月分 ご使用期間 3月17日～ 4月18日 検針月日 4月19日 (33日間)
ご契約種別 電化上手
ご使用量 総計 739kWh 昼間 53kWh 朝晩 181kWh 夜間 505kWh
ご契約 6kVA
割引対象機器容量 5時間通電 4kVA

	計器1（昼）	計器1（朝晩）	計器1（夜）	計器2（夜）
当月指示数	0670	2332	1831	7157
前月指示数	0617	2151	1657	6826
差引	53	181	174	331
乗率（倍）				
取替前計量値				
計器番号（下３桁）	239	289	289	460

請求予定金額 9,330円
（うち消費税等相当額） 444円

上記料金内訳	
基本料金	1,260円00銭
電力量 昼間料金	1,498円84銭
電力量 朝晩料金	4,186円53銭
電力量 夜間料金	4,630円85銭
燃料費調整	-1,248円91銭
太陽光促進付加金	22円
５時間通電割引	-966円00銭
口座振替割引	-52円50銭

お問い合わせは、下記の電話番号まで
～おかけ間違いにお気をつけください。～
太陽光促進付加金単価（1kWhあたり） 3銭
燃料費調整のお知らせ（1kWhあたり）
4月（当月）分 -1円69銭
5月（翌月）分 -1円43銭
翌月分は当月分に比べ +0円26銭
今月分 振替予定日 4月28日
次回検針予定日 5月20日
地区番号 17 お客さま番号 82504-10801-1-01
検針員 恩田
お問い合わせ先／カスタマーセンター
お引っ越し、ご契約の変更 0120-995-005
その他の電気に関するご用件 0120-995-006
東京電力株式会社 荻窪支社(011)
～CO2に関する情報等は裏面をご覧ください～
このお知らせ票で集金員が料金を収納することはありません。
また、金融機関やコンビニエンス・ストアでのお支払いはできません。

使用電力支出額：9,330 円

毎度ご利用いただきありがとうございます
余剰購入電力量のお知らせ
林 憲男 様
ご使用場所 中野区中央５丁目４－８
23年 4月分 購入期間 3月17日～ 4月18日 検針月日 4月19日 (33日間)
購入電力量 206kWh
購入予定金額 9,888円
支払予定日 5月 9日
発電設備 太陽光

当月指示数	0962
前月指示数	0756
差引	206
計器乗率（倍）	
取替前計量値	
契約変更前計量値	
計器番号（下３桁）	256

お客さまの買取単価 48円00銭
次回検針予定日 5月20日
地区番号 17 お客さま番号 82504-10801-1-99
検針員 恩田
お問い合わせは、下記の電話番号まで
～おかけ間違いにお気をつけください。～
お問い合わせ先／カスタマーセンター
お引っ越し、ご契約の変更 0120-995-005
その他の電気に関するご用件 0120-995-006
東京電力株式会社 荻窪支社(011)
このお知らせ票で集金員が料金を収納することはありません。
また、金融機関やコンビニエンス・ストアでのお支払いはできません。

余剰電力収入額：9,888 円

太陽光発電導入で契約種別が「従量電灯Ｂ」から「電化上手」となり、料金体系も変り、今夏の１５％節電運動など、導入前後の正確な経済比較は難しいのですが、１年間のデータをみると、月平均では 11,500 円の節減・年 138,000 円・設備費は実質１８０万円でしたので約１３年間で設備費を取り戻す勘定です。一般的には１０年～２０年といわれ、条件に拠るとされています。

システム全体の保障期間は１０年、太陽電池モジュールの出力保障（範囲は最大出力の８０％以上）は２５年となっています。

導入をご検討されている方は、充分過ぎる程の「太陽光発電システム」に関するＨＰがありますので、是非ググッて下さい。

注意事項としては

① インターネットで検索して、しっかり各種情報を掴むこと。
② 屋根をいじる作業なので熟練度の高い施工業者を選ぶこと。（雨漏り事故）
③ 電力線は、一つの柱上トランス（Ａ）を経由して数世帯に繋がっていますが、余った売電用の電気はＡグループ世帯にしか流れないのです。隣接柱上トランスＢグループの世帯までは電気は流れて行きません。現状では、結果として発電しても売れない場合があるという落とし穴です。あまり知られていないようです。故に、現時点では、搭載モジュール枚数は過大にしないこと。この事は、巨大な風力発電でも生じているようで、国はスマートグリッドという新電力網を構築しようとしているようです。

スマートグリッド（次世代送電網）とは、家庭や企業などに設置した通信機能付きスマートメーター（次世代電力計）で電力需要を即時に把握し、供給を最適化するもので、欧米で普及が先行し、再生可能エネルギーの弱点を補う技術とし

て期待が高まっています。

現に、日本では愛知県豊田市の６７戸で太陽光発電などで自動車に充電した電気を夜間などに活用する実証実験が９月開始。さいたま市も「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の協議会ができたようです。

再生可能エネルギー（太陽光、風力、波力、潮力、流水、潮汐、地熱、バイオマス等）を活用する「エネルギー基本政策」を国策として定める。私は、車窓から外の景色を眺めたら、日本国中が、再生可能エネルギー利用の各種設備で覆われていたという、地球を汚さない、地球環境保全に貢献する日本国になりたいと願っています。

①新電力網で再生エネ普及　②地熱発電国内で事業化　③再生可能エネルギーの全量買い取り制度の導入など、好ましい動向が新聞で見えて来てます。

一方、①地球温暖化による異常気象と災害・町中に熊の出没・海水面上昇　②フロンガスにより南極に引き続き北極のオゾン層が８割破壊　③福島原発事故に拠るセシュム１３７の放射能半減期は３０年であり、１０００分の１になるには３００年と言われています。福島原発の廃炉には１００年単位の後始末、海水汚染、降灰地域の除染、その放射性廃棄物の安全な貯蔵施設などなど、気の遠くなる道程です。[「環境を壊したら、生物は死滅する」というのが、「宇宙のおきて」だったのです。]と心配されていた松本さんのお言葉を再掲し、尊敬する大先輩を偲んで筆を擱きます。

（最後までご辛抱（お読み）いただき有り難うございました。2011.10.10. 記）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊　数独で一休み　＊＊＊＊＊＊＊＊＊

網かけの升に入る数の合計はいくつでしょう。

		(網かけ)			2	9		
7			3					4
	2			6			1	
	6				5	3		
9								5
		5	4				2	
	8			2			6	
3					9			7
		4	1		(網かけ)			

答えは

「お知らせ」の末尾

7　お知らせ

１．新入会員の紹介

平成２３年度上半期に入会された方は下記の７名です。

佐　藤　修　司　様	自宅	０４５－
佐　藤　　　裕　様	自宅	０４８－
南　波　　　昇　様	自宅	０４２－
東　　　裕　美　様	自宅	０４８－
大河原　　　晃　様	自宅	０２７－
藤　田　良　二　様	自宅	０２８７
長谷川　正　義　様	自宅	０４７－

２．叙　勲

次の方が平成２３年春の叙勲の栄に浴されました。

桑原　守二　様　　瑞宝中綬賞

次の方が平成２３年秋の叙勲の栄に浴されました。

藤岡　宏衛　様　　瑞宝小綬賞

井代　順之　様　　瑞宝小綬賞

３．長寿番付十傑

倉井　正治　様	（明治３８年１２月　６日生）	１０６歳
佐藤喜代雄　様	（大正　５年　３月１３日生）	９５歳
横山　辰男　様	（大正　５年　９月１６日生）	９５歳
横井　大六　様	（大正　６年　９月　６日生）	９４歳
井上　五郎　様	（大正　７年　２月２１日生）	９３歳
池田　嘉文　様	（大正　７年　８月２９日生）	９３歳
神澤　　等　様	（大正　８年　１月１６日生）	９２歳
富田千之助　様	（大正　８年　７月２９日生）	９２歳
府川金治郎　様	（大正　８年　８月１３日生）	９２歳
山本　義雄　様	（大正　９年　１月２２日生）	９１歳

４．物故者の職歴など

平成２３年度上半期で亡くなられた６名の方々の職歴などを掲載いたします。

氏　名 （ 年令 ） 死亡日	略　歴
梶　　昭三　様 （８３歳） 平成２３年４月４日	入社　昭和２３年１０月　東京無線通信部 略歴　千葉統無中、渋谷統無中、千代田統無中 退社　昭和６１年３月　東京中央ネットワークセンタ
平田　勝治　様 （８６歳） 平成２３年４月８日	入社　昭和２３年４月　双子無線中継所 略歴　三宅無線中継所 退社　昭和５５年５月　三宅無線中継所
関　　要　様 （８３歳） 平成２３年5月１６日	入社　昭和２１年５月　逓信院工務局 略歴　東京統無中、東京無線通信部、関東通信局 退社　昭和３９年５月　本社（マイクロ無線部）
伊藤　嘉明　様 （８４歳） 平成２３年４月７日	入社　昭和１６年４月　東京都市逓信局 略歴　施設局、東京統無中、伊豆大島統無中 退社　昭和５９年３月　関東通信局
吉橋　　進　様 （８５歳） 平成２３年７月６日	入社　昭和２２年８月　戸塚特別送信所 略歴　渋谷統無中、千代田統無中、横浜統無中 退社　昭和５９年５月　横須賀統制無線中継所
高岡　泰資　様 （８４歳） 平成２３年7月２４日	入社　昭和２４年１０月　大宮電報電話局 略歴　前橋統無中、熊谷統無中、千代田統無中、 退社　昭和５９年３月　中野統制無線中継所

５．その他

（１）ボランティア活動賞の受賞

平成２３年５月２８日（土)、関東電友会第４５回総会の席上において、関 政雄さんが「ボランティア活動関東電友会会長賞」を受賞されました。

関さんは自身ご高齢（８６歳）の今まで１６年間と云う長きにわたり、高齢者を対象としたボランティア活動(マジック慰問、

見守り訪問員、高齢者への給食配送、地域花いっぱい運動、他）に取り組み、途中休むことなく毎月多くの日数を費やす活動に力を注がれました。

（２）業界窓口担当者へ支援依頼の打合せ

無線支部会員にはＮＴＴを退職後も建設業界など各社に在籍し、活躍されている方が数多くおられます。大勢の会員が在籍するこれら会社には、窓口担当者をお願いし、経費節減のための会報、名簿などの一括配布、新会員の入会勧奨などにご協力をいただいているところです。

支部では今回、初めての試みとして平成２３年１０月４日（火）、業界窓口担当者（日本コムシス㈱、㈱協和エクシオ、大明㈱、ドコモエンジニアリング㈱、㈱東電通）に一同に集まっていただき、今後とも無線支部との連携を密として一層の支部活動の支援をお願いいたしました。

（３）お詫び

６７号の随想に掲載しました「焼酎のルーツ　イラクのアラク」の中で編集担当の校正不十分のため、誤植を残したまま発行してしまいました。ここに執筆者：山下義智様にお詫びを申し上げます。なお、読者の皆様には、次の正誤表のとおりむせん６７号での訂正方よろしくお願いいたします。

（正誤表）	（誤）		（正）
① P104 下から 2 行目	何粒ムシャムシャ	→	何粒かムシャムシャ
② P105 上から 13 行目	ブーダン	→	ブータン
③ P106 上から 3 行目	ダイ米	→	タイ米
④ P106 下から 16 行目	中島中将	→	牛島中将

（４）東京無線通信部社員名簿を探しています。

電友会東京無線支部の活動において過去の名簿は非常に重要ですが、現在次の年度の名簿がありません。会員の皆様のお手元に次の年度に該当する名簿がありましたら、ご寄贈をお願いできないでしょうか。また、借用できれば複写してお返しすることも可能です。ご連絡をお待ちします。

探している名簿の年度は次のとおりです。

「昭和４０年以前」

「昭和４２年、昭和５３年～昭和５６年」

「昭和６２年中央ネットワーク支社社員名簿」

＊６６ページ　数独の答え　（ １１ ）

8　無線中継所の今昔物語　第3話　江古田統制無線中継所

昭和２４年１月、江古田無線中継所は東京～新潟 60MHz 回線の開通に合わせて発足し、ＶＨＦを主体とする当時の長距離回線の東京側の拠点として活躍した。その後、東京～大島、東京～三宅、八丈島間の 250MHz 島嶼回線が設置されたが、３２年以降はマイクロ回線の拡充に伴い島嶼回線を除く長距離回線は急速に縮退され、昭和５４年３月無駐在化、昭和ＸＹ年Ｚ月中継所の機能を停止した。[注)]

当時の江古田無線中継所

住所：東京都中野区上高田５丁目１５－１２
交通：西武新宿線　新井薬師駅下車　徒歩１５分

昭和２４年　１月	江古田無線中継所開設 東京～新潟 60MHz 回線開通
昭和３１年１２月	東京～三宅～八丈ルート 60MHz のルート変更 東京側端局が長津田から江古田に変更
昭和３２年　３月	江子田～双子～大島 250MHz 回線開通
昭和３３年　３月	東～三～八ルート 60MHz より 250MHz に周波数変更
昭和３６年１０月	東京～大島 250MHz, SYS 増設工事完了
昭和３７年　３月	東京～三宅 250MHz, SYS 増設工事完了
昭和４６年１０月	東京～三宅～八丈ルート TR−7 化工事完了

昭和５１年１０月　　江古田統無中廃止
昭和５４年　３月　　江古田無線中継所の無中駐在化

1987年6月頃の江古田（背景は西新宿の高層ビル）

現在、上高田の緑豊かな住宅地にある跡地は三階建てマンション「グランウエリス哲学堂公園」となって、周囲の環境と調和している。また哲学堂公園、三井文庫、道路を挟んだ向かいの小川医院はそのままで存在している。

跡地のマンション：グランウエリス哲学堂公園

注）読者の皆様へ：江古田無線中継所についての記録が全くありません。江古田について関わられた方で、各種資料をお持ちの方は、支部へご連絡下さいますようお願いいたします。

編集後記

○世界規模で影響を及ぼす、異常気象とヨーロッパに端を発する金融不安。
その裏には、深刻な環境問題と超円安がもたらす産業の空洞化や経済の低迷があります。これ等と震災復興では、先が見通せず閉塞感で一杯です。
震災後の今こそ、心の持ちようを含め普段の生活のあり方そのものを見直す絶好の機会なのかも知れません。
○一方、政局ばかりで問題山積の政治ですが、一つ一つ確実に実行に移すと低姿勢でスタートした野田“どじょう内閣”に期待したいと思います。
○１０００年に一度の大震災があった今年も暮れようとしています。
今年の１０大ニュースのトップは、決まっていますが、「漢字一文字」は、絆（キズナ）か、克（カツ）か。
これから節電に協力する冬本番を迎えますが、お身体に気を付けて、元気に幸多き・良いお年をお迎え下さい。
○最後に一言
本誌への投稿ですが、若干、投稿数・人数とも落ち込んでおります。
会員の皆様の更なるご協力を、切にお願い申し上げます。
特に次号では、「近況だより」がありますので、一言でも結構です。
元気だよ・○○で働いているよ・退院したよ、等々、何でもアリです。
宜しくお願い致します。（齋藤　隆記）

発行年月日　平成２４年１月１日
発　行　所　関東電友会 東京無線支部
事　務　局　〒１０７－００５２
東京都港区赤坂８－４－２３
ＮＴＴ－ＣＯＭテレビジョン中継センタ内
電　話　０３－３４０８－４２５９
ＦＡＸ　０３－３４０８－４２１６
ホームページ　http://www2.ocn.ne.jp/~musensb
Eメール　musensb21@road.ocn.ne.jp

編集者　渡部律雄
齋藤　隆